

# 第2期斑鳩町人口ビジョン

【2020年 ▶ 2065年】

令和2年12月

斑 鳩 町

# 目 次

---

序章 第2期斑鳩町人口ビジョンの策定にあたって.....	1
1. 人口ビジョンの位置付け.....	1
2. 第2期斑鳩町人口ビジョン策定の目的.....	1
3. 改訂の内容.....	1
4. 国の人口推移と社会情勢.....	2
第1章 斑鳩町の人口動向の現状と見通し.....	3
1-1. 現状分析.....	3
(1) 総人口の推移.....	3
(2) 人口動向.....	4
(3) 人口動態.....	6
(4) 要因別分析.....	7
(5) その他の分析.....	11
1-2. 将来人口の見通し.....	14
(1) 第1期斑鳩町人口ビジョンの検証.....	14
(2) 趨勢人口の推計.....	17
(3) 趨勢人口をふまえた将来人口のシミュレーション.....	19
(4) 将来人口のシミュレーションをふまえた課題.....	30
第2章 斑鳩町における人口の将来展望.....	35
2-1. めざすべき戦略人口と将来展望.....	35
(1) 斑鳩町の戦略人口.....	35
(2) 戦略人口に基づく将来展望.....	36
2-2. 戦略人口の達成にむけて.....	42

## 1. 人口ビジョンの位置付け

---

人口ビジョンは、本格的な人口減少社会を迎える中で、本町における人口の現状分析を行い、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。また、本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略において、効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付けられるものです。

## 2. 第2期斑鳩町人口ビジョン策定の目的

---

第1期斑鳩町人口ビジョンは2015（平成27）年度に策定しましたが、その後の人口変化や国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の見直しにあわせて、第2期斑鳩町人口ビジョンとして一部改訂を行います。

## 3. 改訂の内容

---

### （1）人口動向の追加

2015（平成27）年の第1期斑鳩町人口ビジョン策定以降の5年間の人口動向を追加します。

### （2）各種統計調査結果の更新

2015（平成27）年の国勢調査をはじめとする、第1期斑鳩町人口ビジョン策定以降に新たに公表された各種統計調査結果を追加し、更新します。

### （3）将来人口推計の見直し

国立社会保障・人口問題研究所から2018（平成30）年に公表された『日本の地域別将来推計人口2018（平成30）年推計』を基に、人口推計に必要なパラメータを用いて再推計します。

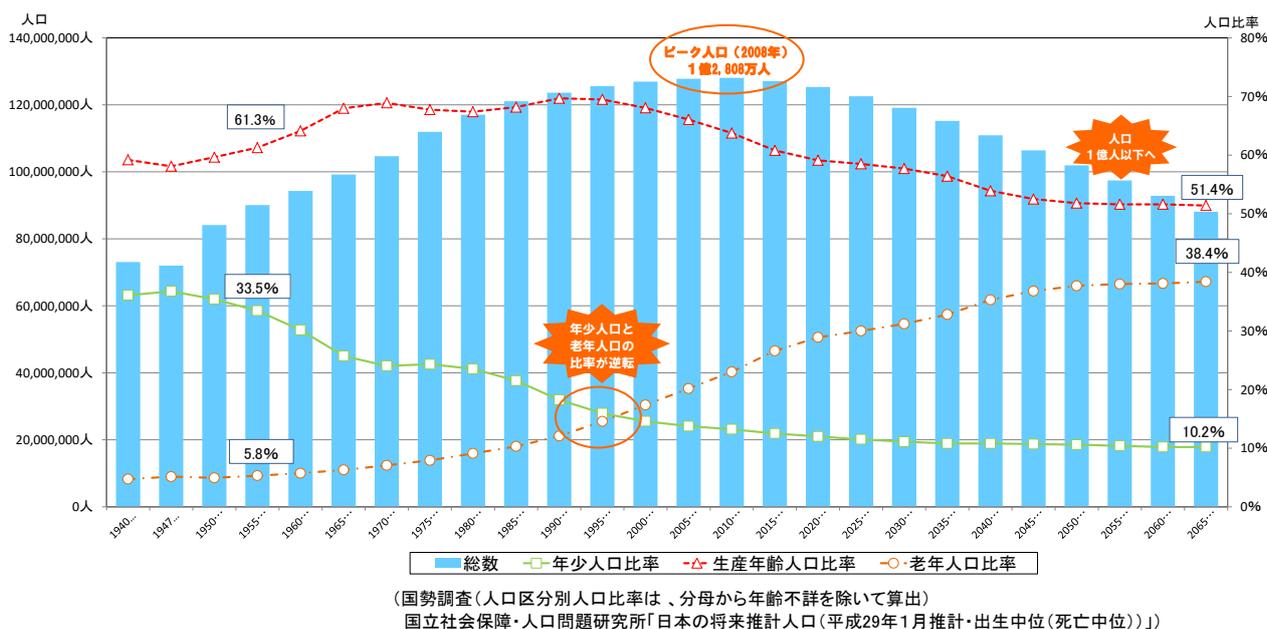
### （4）推計期間の延長

推計期間を2060（令和42）年から5年延長し、2065（令和47）年まで推計します。

## 4. 国の人口推移と社会情勢

我が国の人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少に転じ、2065年には約8,807万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期の1955年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が低く、老年人口（65歳以上）の割合が高くなっており、年少人口と老年人口の割合がほぼ逆転しています。

図表1 国の長期人口推移



### 国の人口動向

#### 人口の減少

2019年の総人口1億2,616万7千人  
※ピーク人口(2008年)から約190万人程度減少

#### 全国的な低出生率と大都市の低出生率の継続

2019年の合計特殊出生率「1.36(東京都1.15)」、年間出生数86万5千人  
※2014年の合計特殊出生率「1.42」から改善がみられない

#### 晩婚化の進行

1975年の平均初婚年齢「夫27.0歳、妻24.7歳」  
→2019年の平均初婚年齢「夫31.2歳、妻29.6歳」

#### 人口の東京一極集中

2019年の東京圏転入超過「14万6千人」  
※24年連続の東京圏転入超過

#### 高齢化の進行

1980年の65歳以上人口、高齢化率「3,461万人、9.1%」  
→2019年の65歳以上人口、高齢化率「3,588万5千人、28.4%」  
※高齢化率過去最高

(人口推計(令和元年10月1日)、人口動態統計(概数)、住民基本台帳人口移動報告)

# 第1章 斑鳩町の人口動向の現状と見通し

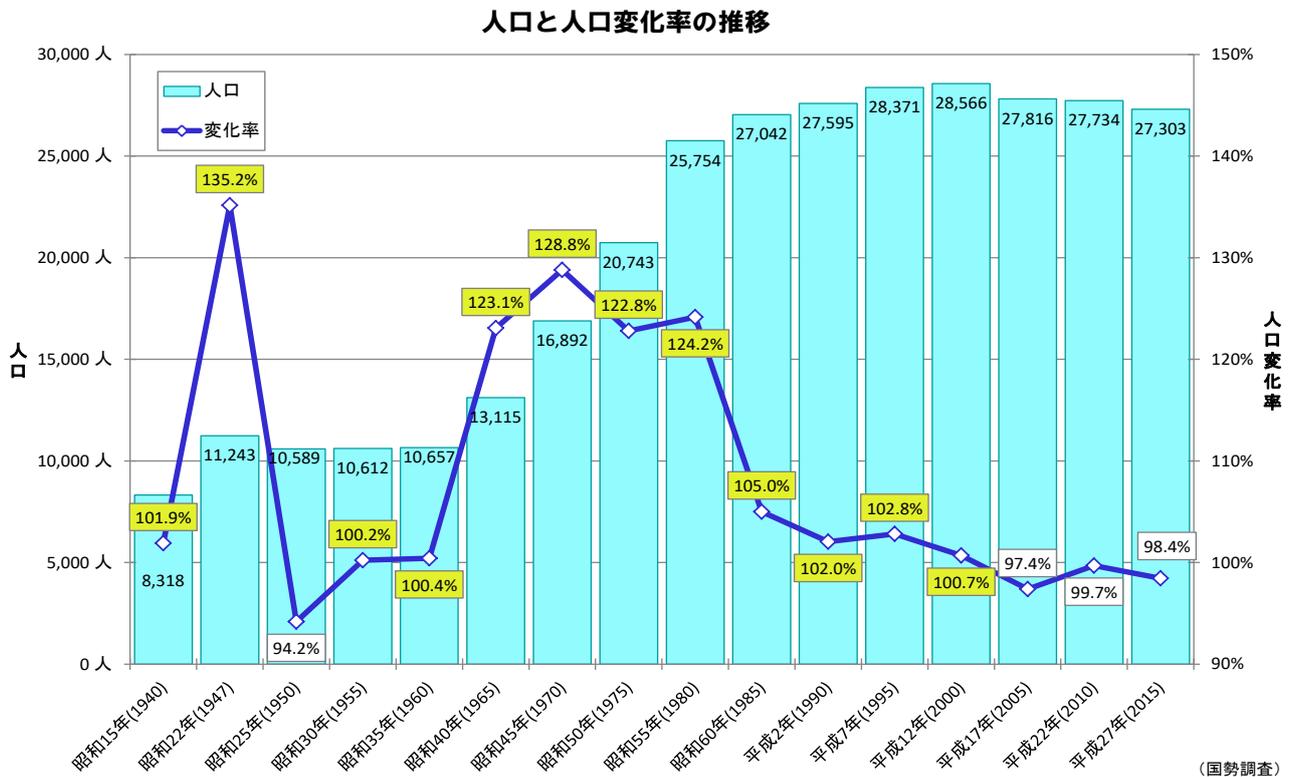
## 1-1. 現状分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

### (1) 総人口の推移

斑鳩町の人口は、ベビーブーム等に伴って1947（昭和22）年に人口が大きく増加し、また、高度経済成長を背景に、1980（昭和55）年にかけて大きく増加しました。

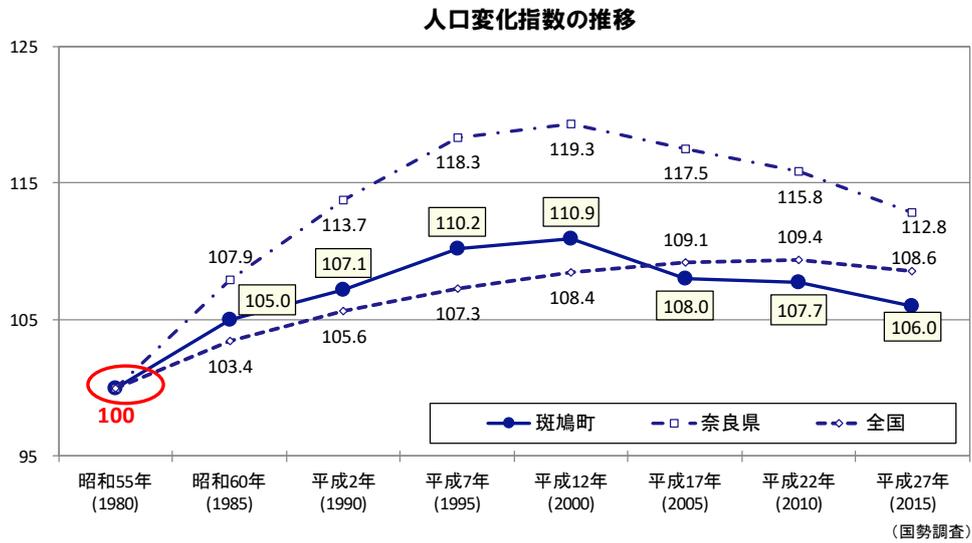
2000（平成12）年に28,566人でピークを迎えた後は緩やかな減少に転じ、2015（平成27）年には27,303人となっています。



## (2) 人口動向

### ① 人口変化指数

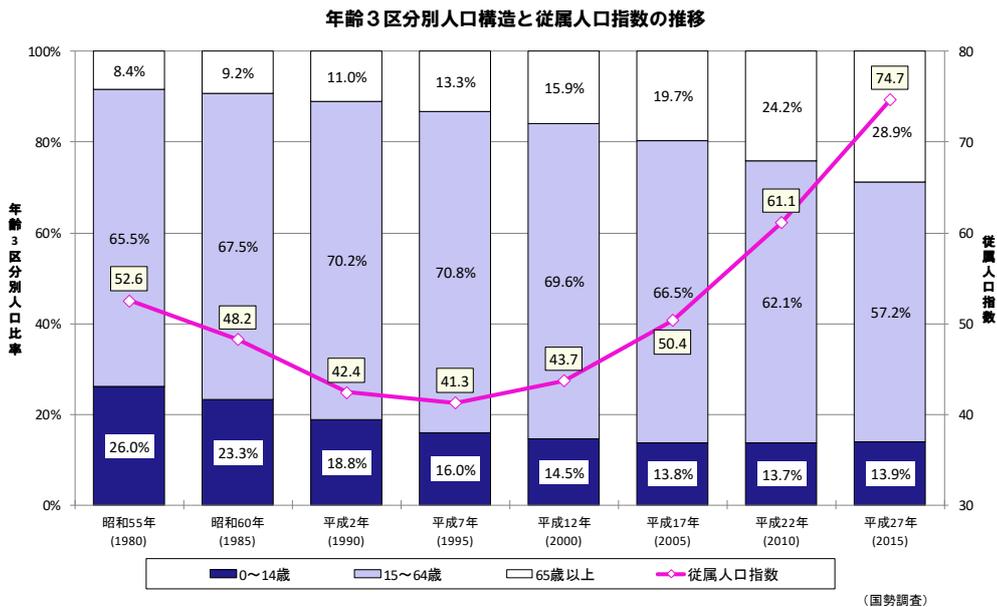
1980（昭和 55）年の人口を 100 とした場合の変化指数の推移を全国・奈良県・斑鳩町で比較すると、全国では 2010（平成 22）年をピークに 2015（平成 27）年には減少へと転じていますが、奈良県・斑鳩町は 2000（平成 12）年をピークに減少傾向で推移しています。



### ② 人口構成比

○年齢 3 区分別の人口構造の推移をみると、65 歳以上の高齢化率が 1980（昭和 55）年から 2015（平成 27）年には 35 年間で 20.5 ポイント増加している一方で、0～14 歳の年少人口比率は 12.1 ポイント減少しており、少子高齢化が進行しています。

○従属人口指数は、1995（平成 7）年に減少のピークを迎えた後増加に転じ、2015（平成 27）年には 74.7 と過去 10 年において特に大きく増加しています。



従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64 歳）に対する年少人口（0～14 歳）、老年人口（65 歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口 100 人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

年齢5歳階級別人口

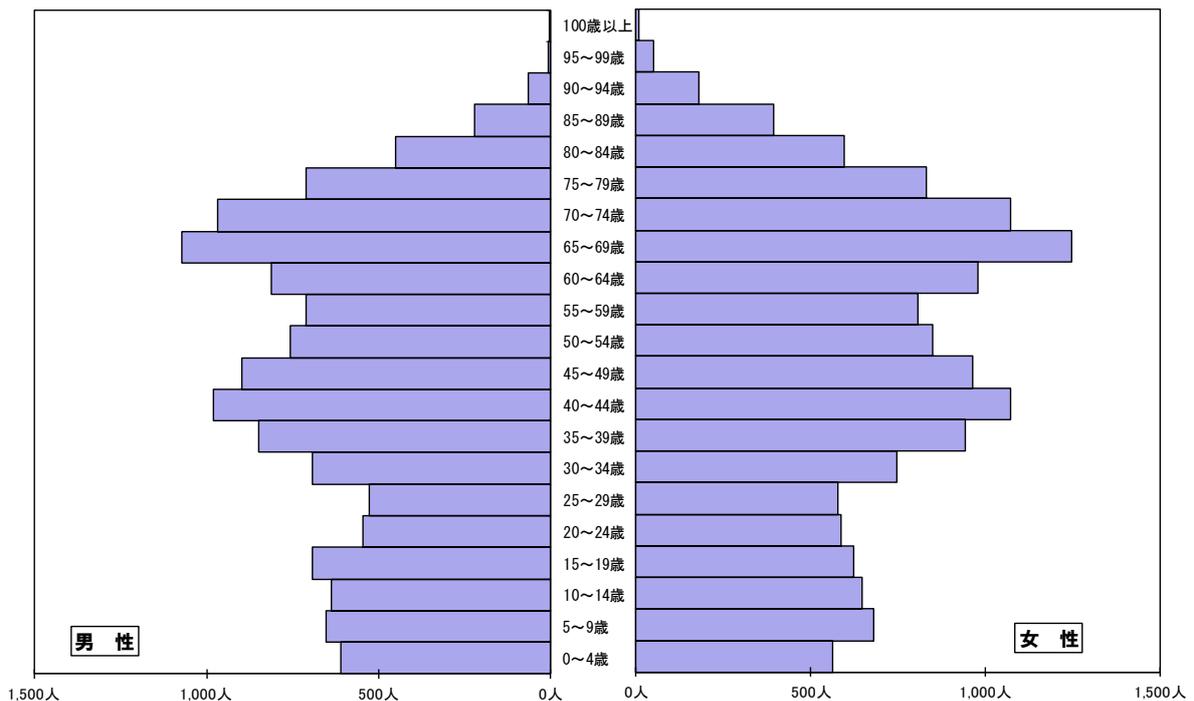
(人)

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	
人 口	年少人口	0～4歳	2,036	1,651	1,325	1,297	1,290	1,116	1,200	1,172
		5～9歳	2,539	2,068	1,739	1,414	1,389	1,339	1,249	1,332
		10～14歳	2,128	2,580	2,112	1,814	1,464	1,384	1,349	1,286
		計	6,703	6,299	5,176	4,525	4,143	3,839	3,798	3,790
	生産年齢人口	15～19歳	1,731	2,133	2,522	2,120	1,796	1,438	1,336	1,315
		20～24歳	1,439	1,637	1,961	2,317	1,883	1,570	1,276	1,134
		25～29歳	1,802	1,472	1,534	1,877	2,120	1,679	1,446	1,107
		30～34歳	2,453	1,856	1,530	1,683	1,902	1,938	1,701	1,440
		35～39歳	2,384	2,572	1,884	1,601	1,718	1,896	2,030	1,793
		40～44歳	2,050	2,418	2,557	1,969	1,648	1,670	1,878	2,051
		45～49歳	1,663	2,042	2,342	2,556	1,964	1,627	1,631	1,863
		50～64歳	3,357	4,113	5,012	5,953	6,805	6,681	5,869	4,916
	計	16,879	18,243	19,342	20,076	19,836	18,499	17,167	15,619	
	老年人口	65～74歳	1,469	1,532	1,759	2,309	2,789	3,253	3,888	4,356
		75歳以上	700	968	1,267	1,455	1,737	2,224	2,809	3,519
		計	2,169	2,500	3,026	3,764	4,526	5,477	6,697	7,875
年齢不詳		3	0	51	6	61	1	72	19	
総人口		25,754	27,042	27,595	28,371	28,566	27,816	27,734	27,303	
構 成 比	年少人口	0～14歳	26.0%	23.3%	18.8%	16.0%	14.5%	13.8%	13.7%	13.9%
	生産年齢人口	15～64歳	65.5%	67.5%	70.2%	70.8%	69.6%	66.5%	62.1%	57.2%
	老年人口	65歳以上	8.4%	9.2%	11.0%	13.3%	15.9%	19.7%	24.2%	28.9%

(国勢調査)

○年齢5歳階級別人口の推移をみると、近年特に生産年齢人口の減少が大きくなっています。  
○2015（平成27）年の5歳階級別人口構造をみると、団塊の世代を含む65～69歳の人口の割合が最も大きくなっており、少子高齢化の進行が加速するものと予測されます。

斑鳩町の5歳階級別人口構造



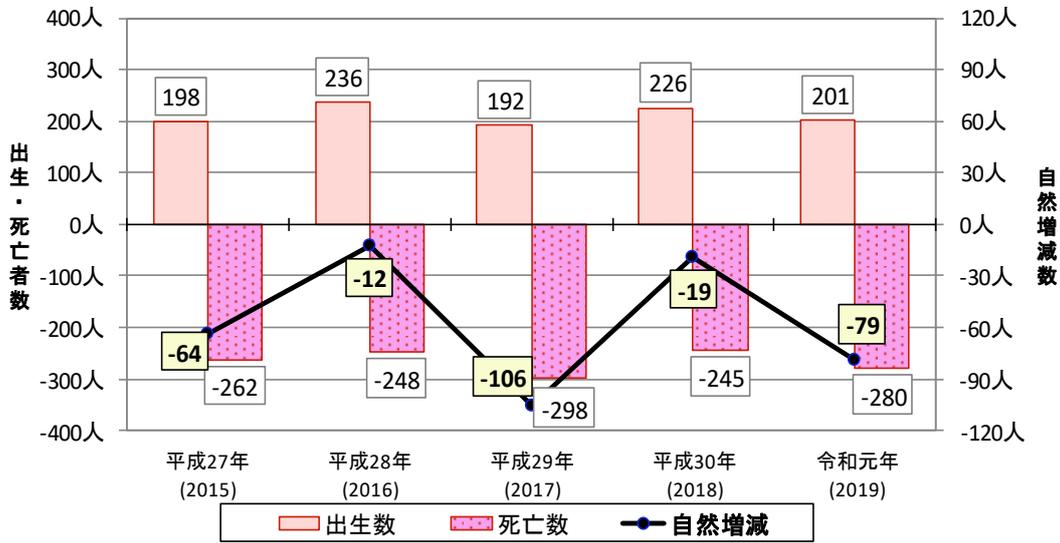
(平成27年,国勢調査)

### (3) 人口動態

#### ① 自然動態

2015（平成27）～2019（令和元）年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数、死亡者数ともに増減を繰り返しながら推移していますが、自然増減数については一貫して自然減となっており、2019（令和元）年には79人の自然減となっています。

出生・死亡者数の推移

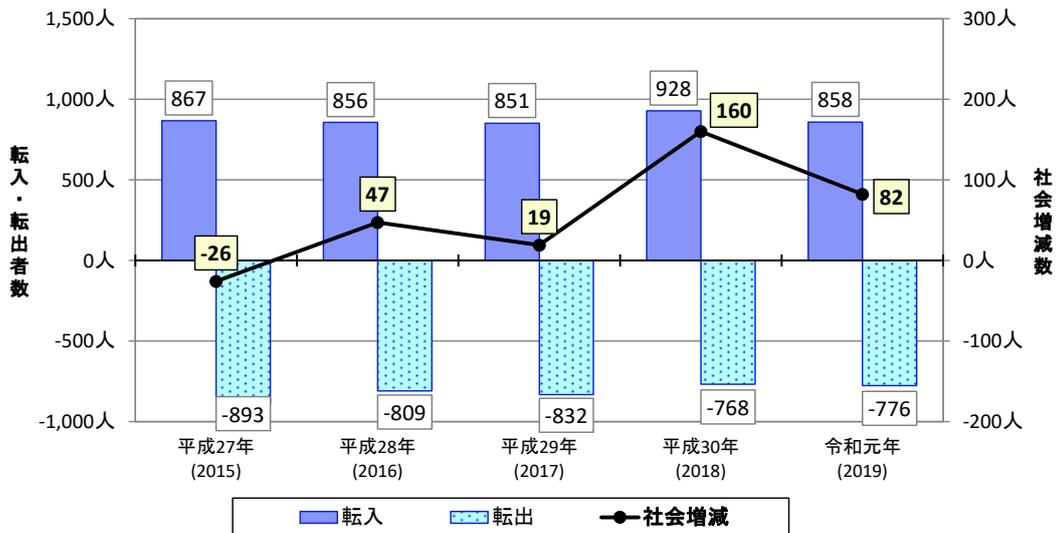


(人口動態統計)

#### ② 社会動態

2015（平成27）～2019（令和元）年の5年間の転入・転出者数をみると、転入者数、転出者数ともに増減を繰り返しながら推移しています。社会増減数については2015（平成27）年以降増加傾向で推移しており、2019（令和元）年には82人の社会増となっています。

転入・転出者数の推移

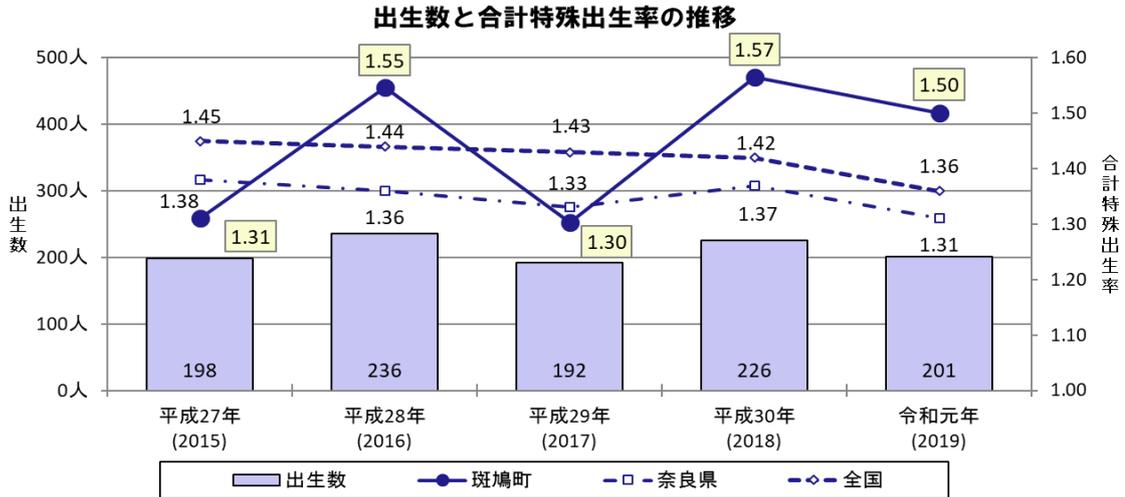


(住民基本台帳人口移動報告)

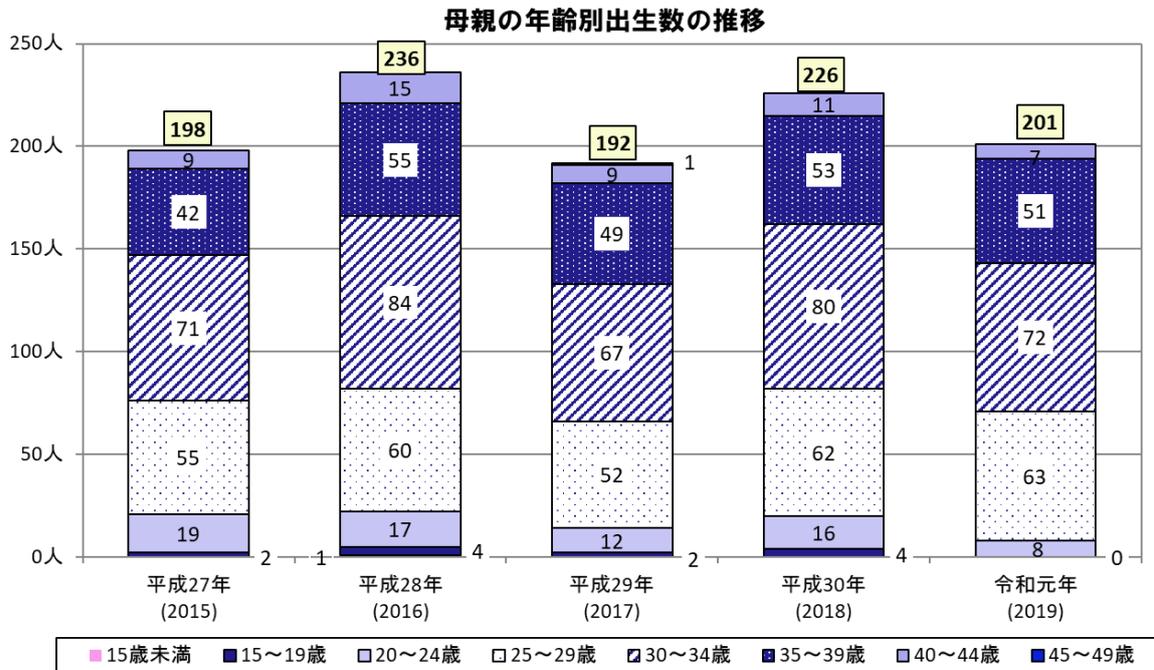
#### (4) 要因別分析

##### ① 出生の状況

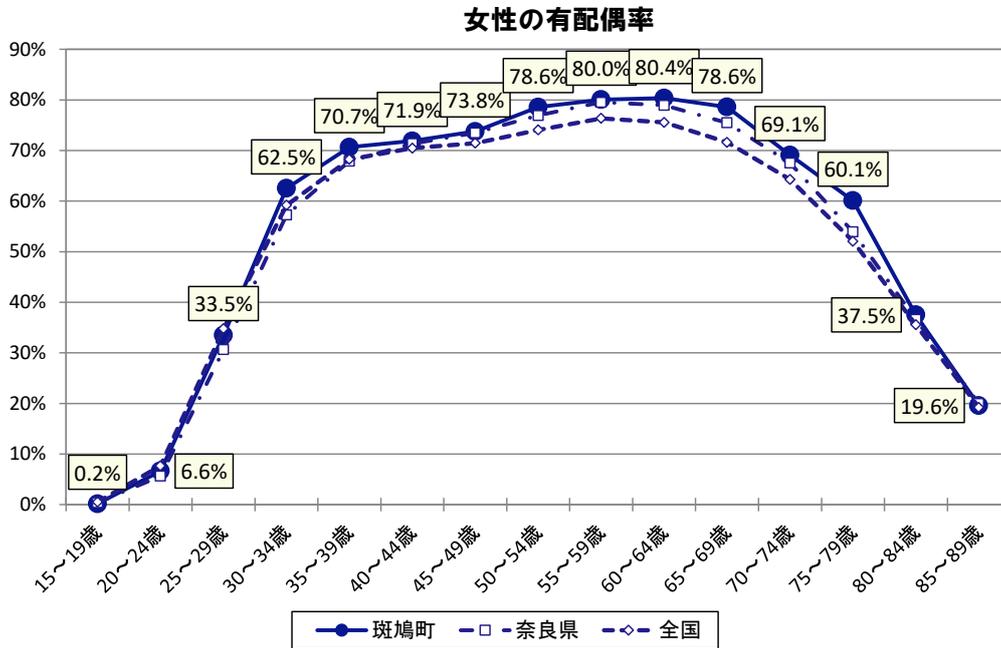
2015（平成 27）～2019（令和元）年の5年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国はの 1.35～1.45 前後で推移しており、奈良県は近年 1.3～1.4 で推移しています。斑鳩町については、出生数、合計特殊出生率とも増減を繰り返しています。



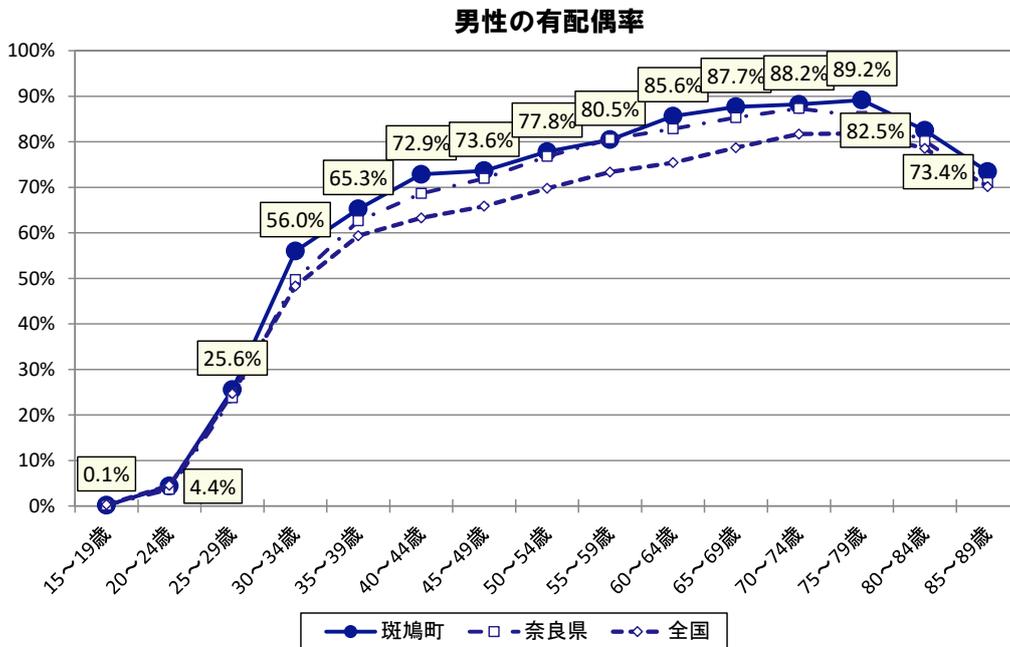
母親の年齢別出生数については、近年増減を繰り返しており、出生数が最も多い“30～34歳”では、各年 70～80 人前後で推移しています。



2015（平成 27）年の女性・男性の有配偶率を全国・奈良県・斑鳩町で比較すると、斑鳩町の有配偶率は 30 歳代以上で全国・奈良県水準を上回っていますが、20 歳代については、全国・奈良県水準とほぼ同水準となっています。



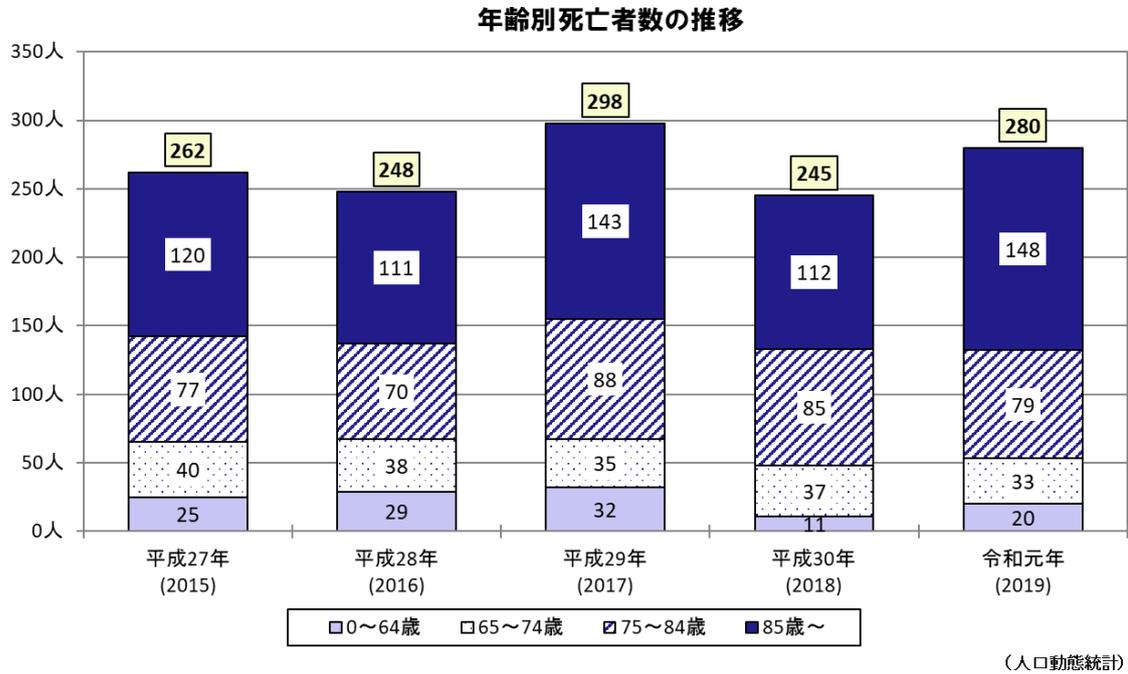
（平成 27 年,国勢調査）



（平成 27 年,国勢調査）

## ② 死亡の状況

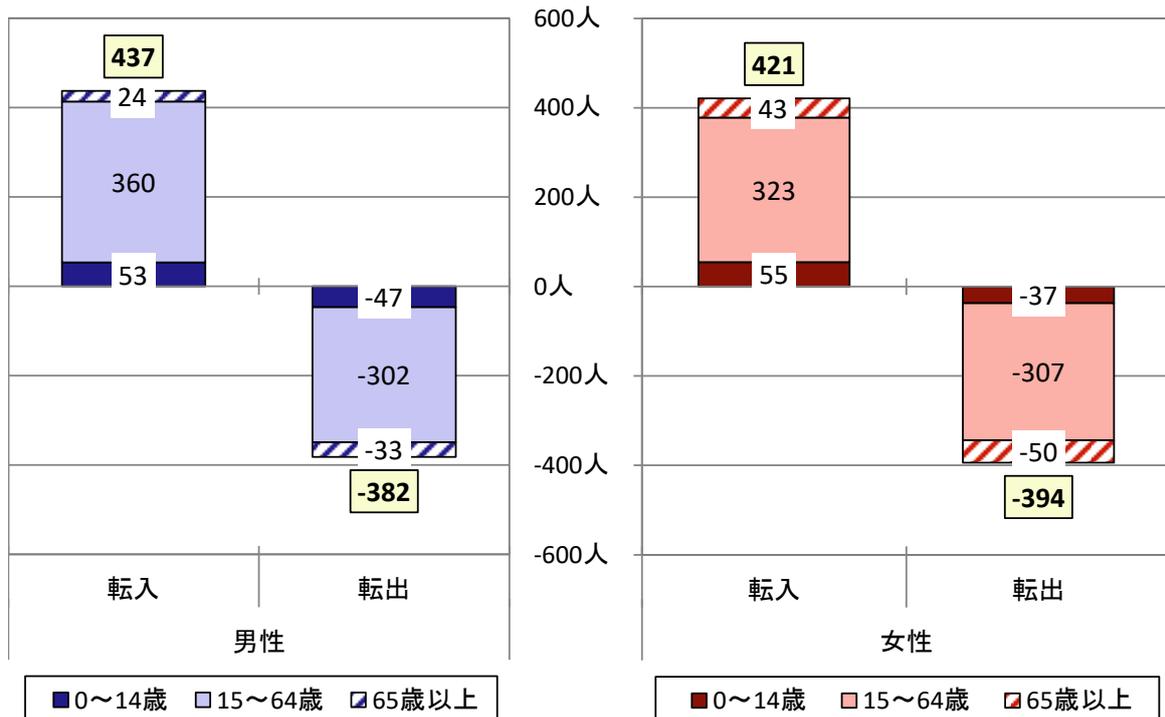
2015（平成27）～2019（令和元）年の5年間の年齢別死亡者数をみると、各年250～300人前後で推移しており、85歳以上が占める割合が高い状況です。



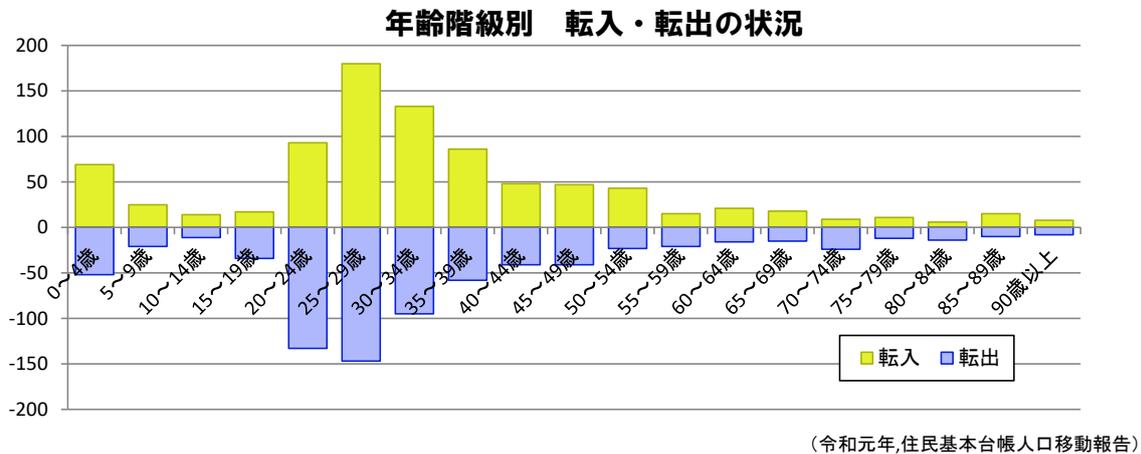
## ③ 転入・転出の状況

2019（令和元）年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、男女とも“0～14歳”“15～64歳”で転入超過となっています。

**性別・年齢3区分別の転入・転出の状況**

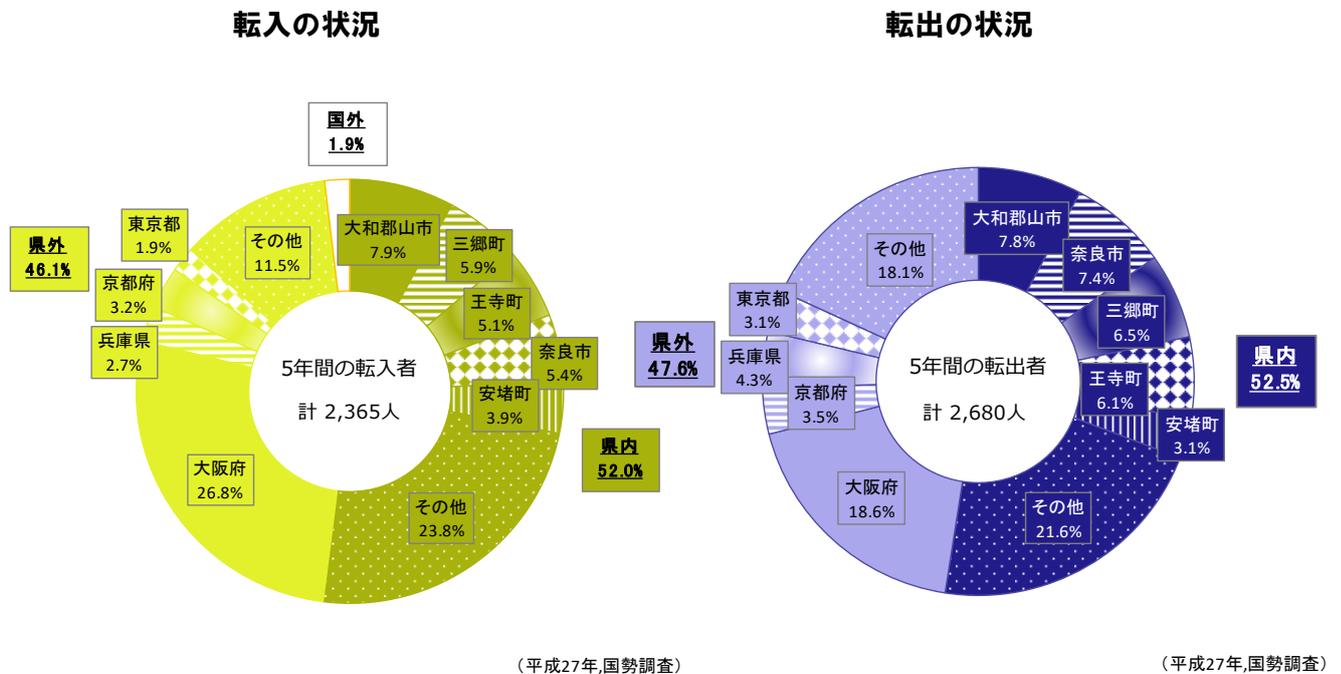


2019（令和元）年の転入・転出の状況を年齢5歳階級別にみると、“15～64歳”の中でも進学・就職あるいは退職の時期である“15～19歳”“20～24歳”また“55～59歳”では転出超過となっているものの、“25～29歳”及び30歳代では特に転入超過が顕著となっています。“0～4歳”の転入が多いことも合わせ、子育て世代が多く転入している状況が伺えます。



転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は県内からが52.0%と約半数を占め、大和郡山市が最も多く全体の7.9%となっています。転出についても県内が52.5%を占め、同じく大和郡山市が7.8%で最も多くなっています。

県外では、転入・転出ともに大阪府が最も多くなっています。



## (5) その他の分析

### ① 通勤・通学の状況

2015（平成27）年の町内常住の就業者・通学者 13,103 人の従業・通学地についてみると、町内に通勤・通学している人が 3,388 人（25.9%）、他市区町村が 9,535 人（72.8%）となっています。

他市区町村への通勤・通学先は、大阪市が最も多く 2,578 人（27.0%）、次いで、大和郡山市が 1,104 人（11.6%）、奈良市が 948 人（9.9%）の順となっています。

他市区町村常住の就業者・通学者で斑鳩町に通勤・通学している人をみると、大和郡山市が最も多く 537 人（15.6%）、次いで奈良市が 420 人（12.2%）となっています。

男女別・従業通学地別の町内常住15歳以上就業者・通学者数

(人)

区分	町内		他市区町村				不詳	計
	自宅で従業	自宅外の町内で従業・通学	県内の他市区町村で従業・通学	大阪府で従業・通学	その他の県で従業・通学	不詳		
男	563	1,049	2,502	2,648	438	44	102	7,346
女	461	1,315	2,408	1,309	147	39	78	5,757
小計	1,024	2,364	4,910	3,957	585	83	180	13,103
計 (構成比)	3,388 (25.9%)		9,535 (72.8%)				180 (1.4%)	13,103 (100.0%)

(平成27年,国勢調査)

常住地および従業通学地別の15歳以上就業者・通学者数

(人)

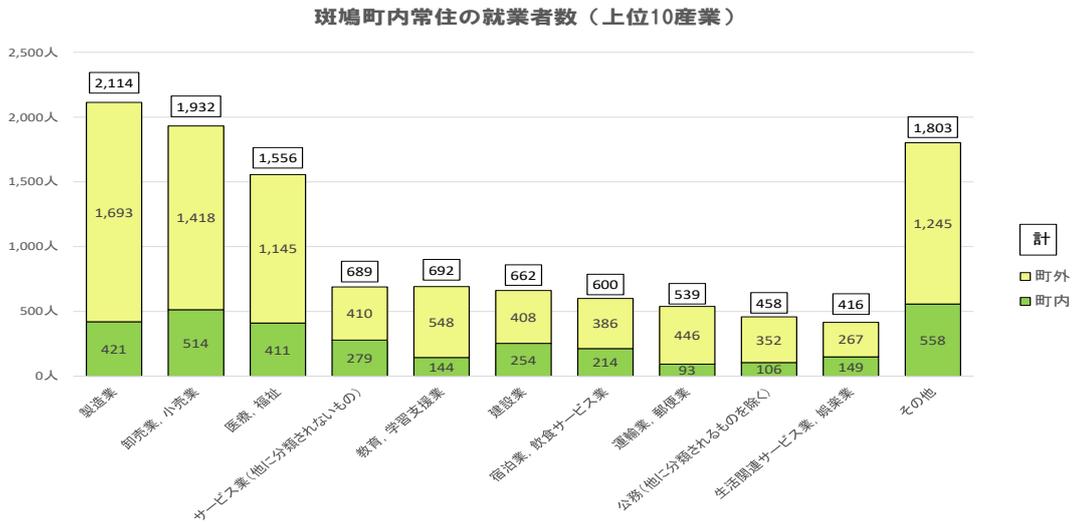
区分		斑鳩町から他市区町村へ			他市区町村から斑鳩町へ		
		総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
総数		9,535	8,318	1,217	3,449	2,884	565
県内	大和郡山市	1,104	1,041	63	537	430	107
	奈良市	948	741	207	420	295	125
	王寺町	392	368	24	206	184	22
	三郷町	291	264	27	282	249	33
	生駒市	271	183	88	172	114	58
	橿原市	213	176	37	111	102	9
	河合町	201	193	8	166	152	14
	その他	1,490	1,327	163	1,277	1,082	195
	計	4,910	4,293	617	3,171	2,608	563
県外	大阪府	3,957	3,537	420	208	206	2
	大阪市	2,578	2,425	153	53	52	1
	東大阪市	273	209	64	18	18	0
	その他	1,106	903	203	137	136	1
	京都府	235	139	96	47	47	0
	兵庫県	173	134	39	8	8	0
	その他	177	148	29	15	15	0
	計	4,542	3,958	584	278	276	2
不詳		83	67	16			

(平成27年,国勢調査)

## ② 産業別就業者数

2015（平成27）年の斑鳩町常住の就業者は11,625人で、従業地「不詳」の164人を除き、町内での就業者が3,143人（27.0%）、町外での就業者が8,318人（71.6%）となっています。

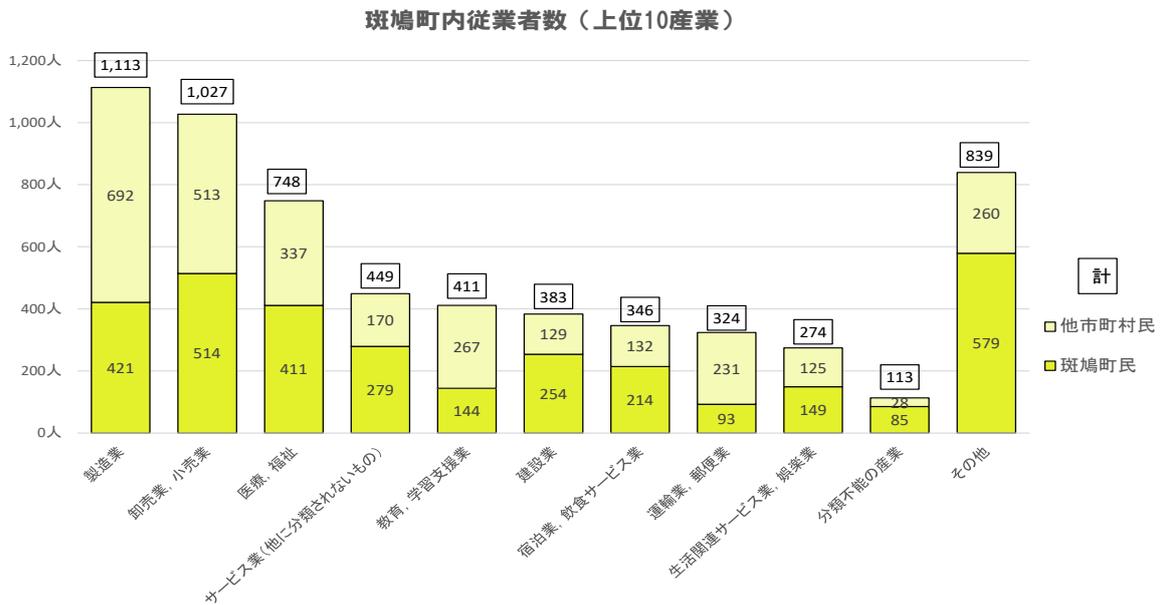
産業分類別にみると、製造業が2,114人と最も多く、そのうち421人（19.9%）が町内で就業しています。次いで、卸売業・小売業が1,932人で、そのうち514人（26.6%）が町内で就業している状況です。



（平成27年、国勢調査）

また、2015（平成27）年の斑鳩町内従業者数については6,027人で、斑鳩町民（町内常住者）が3,143人（52.1%）、他市町村民が2,884人（47.9%）となっています。

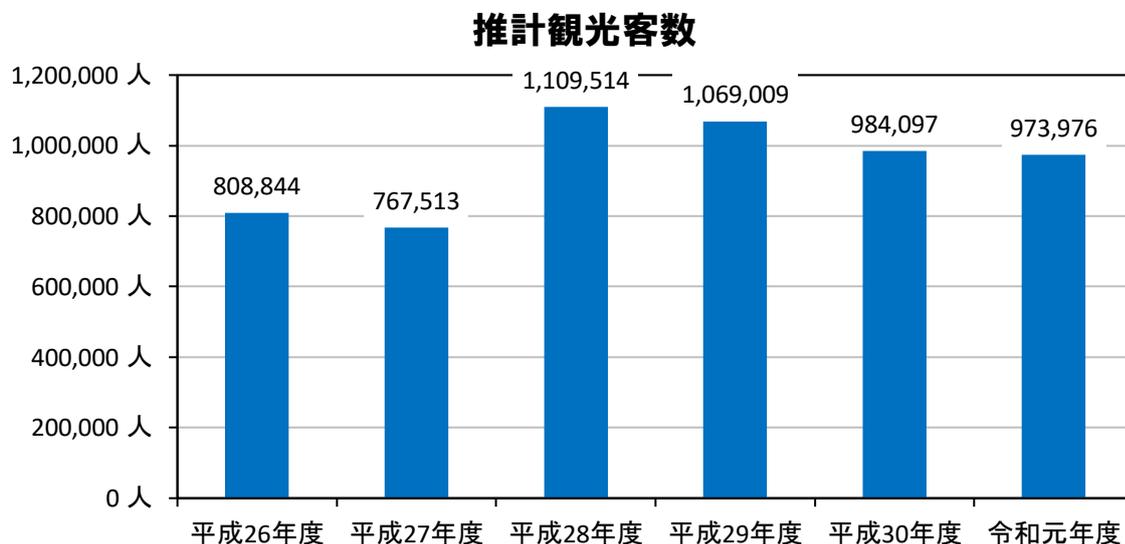
産業分類別にみると、製造業が1,113人と最も多く、そのうち他市町村民は692人（62.2%）を占めています。次いで、卸売業・小売業が1,027人で、そのうち他市町村民は513人（50.0%）となっています。



（平成27年、国勢調査）

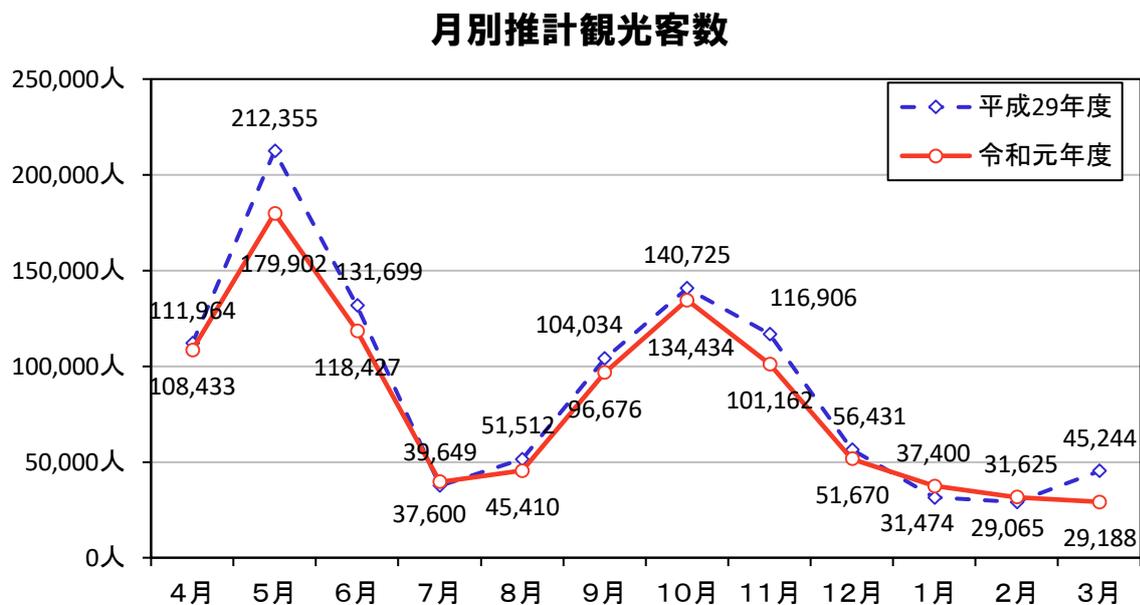
### ③ 観光客数

本町の推計観光客数は、2016（平成 28）年度に推計観光客数の計算方法を国の計算方法に合わせたことから大きく変化しています。その後減少傾向で推移し、2019（令和元）年度には約 97 万 4 千人となっています。



(斑鳩町まちづくり政策課)

月別の推計観光客数としてみると、5 月が最も多く、次いで 10 月となっており、春と秋のシーズン型観光地となっています。



(斑鳩町まちづくり政策課)

## 1-2. 将来人口の見通し

### (1) 第1期斑鳩町人口ビジョンの検証

○本町では、2015年に第1期斑鳩町人口ビジョンを策定し、2060年までの戦略人口を示しました。これに基づいて同年「斑鳩町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、2060年に21,500人程度の戦略人口をめざして、人口減少、少子高齢化など人口に関する諸問題への対策を明らかにし、各施策を着実にすすめてきました。

○第2期斑鳩町総合戦略を策定することを受け、これまでの本町の人口動向を整理しつつ、第1期斑鳩町人口ビジョンのこれまでの進捗状況を振り返るとともに、今後の人口に関する課題を再整理します。

#### ①2015年国勢調査（実績＝実際の人口）との比較

○2018年の国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計による2060年の将来人口は、2013年の社人研推計より672人（3.8%）減少しており、戦略人口との差もやや拡大しています。

○2015年の国勢調査での実績は27,303人で、当時の社人研推計値とほぼ同水準となっています。

#### ◎第1期斑鳩町人口ビジョンの目標：2060年に21,500人程度を維持

西暦（年）	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2060年
戦略人口(第1期人口ビジョン)	27,735	27,321	26,829	26,219	25,517	24,128	21,480
実際の人口 (国勢調査)	27,735	27,303	2015年国勢調査：国の推計と同水準				
社人研推計 (2018年3月)	—	↑	26,535	25,512	24,276	21,602	17,087
社人研推計 (2013年3月)	27,735	27,321	26,658	25,763	24,686	22,316	17,759

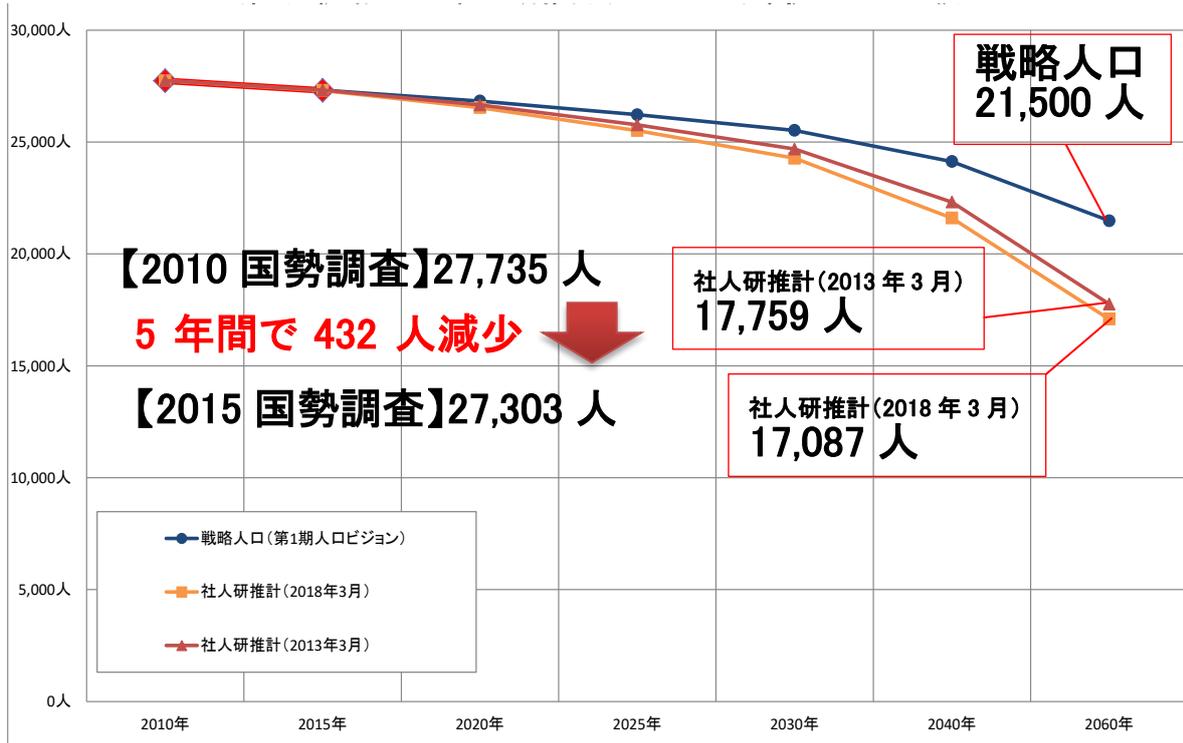
#### ■国勢調査とは（実際の人口：基準日は10月1日）

住民票に関係なく、実際に現在、町内に住んでいる人の数で、国の人口動態は、国勢調査による人口を基礎としています。5年に1度、実施される行政上最も重要な統計調査です。【次回調査：2020年】

#### ■住民基本台帳人口とは（登録している人口）

本町に登録している住民基本台帳の数を数えます。町内に生活の本拠がない人でも住民票を移動していなければ、カウントされます。

### 第1期戦略人口と社人研推計（2013・2018）準拠人口の比較



○国（社人研）の将来推計では、本町の人口は減少しています。

- ・2015年国勢調査での実績：人口は27,303人【当時の国の推計値を18人下回る】
- ・2060年推計を比較：前回（社人研2013）17,759人  
⇒ 最新（社人研2018）17,087人【△672人】

### ②2020年の目標人口の進捗状況の検証

○第1期斑鳩町人口ビジョンでは、2020年の戦略人口を26,829人と設定している中で、社人研による推計では、「26,535人」、2019年12月31日現在の住民基本台帳人口は「28,338人」となっています。この差は、戦略人口と社人研の推計値は、国勢調査をベースとしているためです。住民基本台帳人口は、2015年～2019年の5年間は、増減を繰り返しながら推移しています。

### 斑鳩町の人口の推移

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総人口	28,259	28,298 (39)	28,220 (△78)	28,361 (141)	28,338 (△23)
男性	13,365	13,413 (48)	13,386 (△27)	13,444 (58)	13,450 (6)
女性	14,894	14,885 (△9)	14,834 (△51)	14,917 (83)	14,888 (△29)

（住民基本台帳：各年12月31日）

### ③第1期斑鳩町人口ビジョンの推計設定要素の検証

○第1期斑鳩町人口ビジョンにおける推計設定要素の2020年の目標値と実績見込値を比較すると、合計特殊出生率は目標値に近づいており、自然動態、社会動態では目標値を上回っています。

○したがって、第1期斑鳩町人口ビジョンの戦略人口の設定方法およびその達成にむけた基本的な考え方を第2期斑鳩町人口ビジョンに継承します。

推計設定要素	区分	2020年	評価
合計特殊出生率	第1期目標値	1.50	
	実績見込値	1.47	
	差分	-0.03	目標値に近づいている
出生数	第1期目標値	199	
	実績見込値	218	
	差分	19	目標値を上回っている
死亡数	第1期目標値	-297	
	実績見込値	-264	
	差分	33	目標値を上回っている
自然動態（出生数+死亡数）	第1期目標値	-98.4	
	実績見込値	-45.7	
	差分	52.7	目標値を上回っている
社会動態	第1期目標値	0	
	実績見込値	75.3	
	差分	75.3	目標値を上回っている

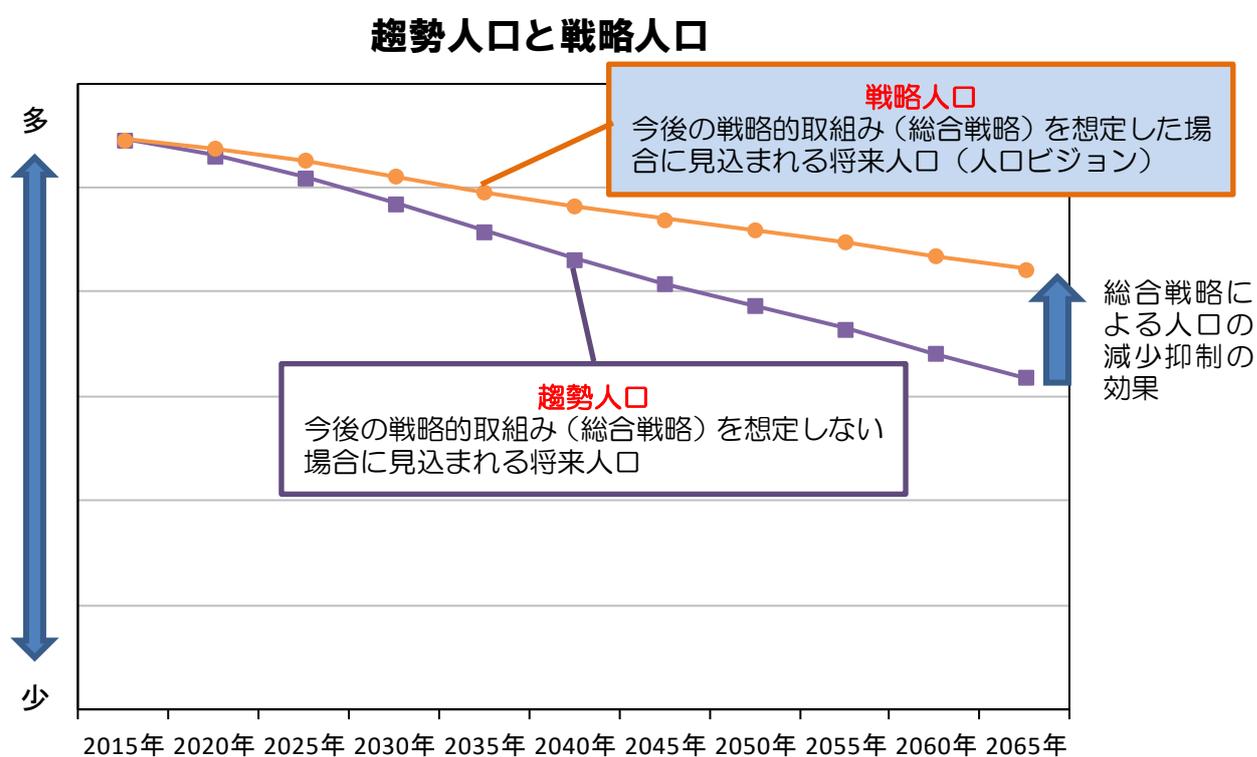
※推計設定要素の2020年実績見込値は、2016～2018年の平均値

差分 = 2020年実績見込値 - 第1期人口ビジョン2020年目標値

## (2) 趨勢人口の推計

### ① 趨勢人口と戦略人口について

- 人口ビジョンにおいて設定する「戦略人口」は、総合戦略による戦略的な人口減少対策の取組みの結果として達成が見込まれる将来人口です。
- 一方、「趨勢（すうせい）人口」は、人口減少対策の取組み等による効果を想定せず、このままの流れですすんだ場合の将来人口です。
- 戦略人口、趨勢人口を設定することで、戦略の効果を確認することが可能となります。
- 人口ビジョンにおける戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討を行い、趨勢人口として、社人研推計を採用することとします。

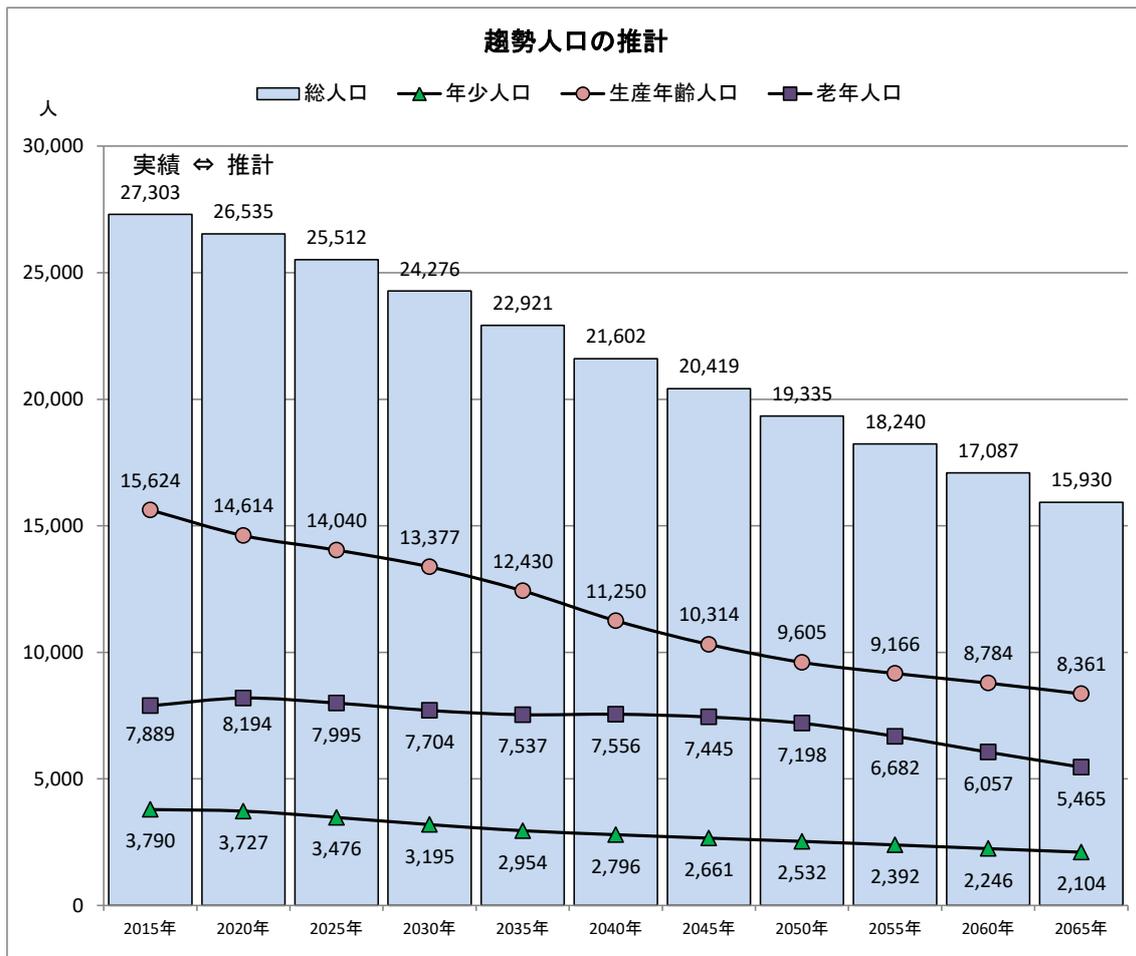


## ②趨勢人口の推計（2018年社人研推計に準拠）

○総人口は、2020年から2065年までに10,605人（約40.0%）減少し、15,930人になると推計されます。

○老年人口は、2020年から2065年までに2,729人（約33.3%）減少し、5,465人となりますが、人口全体の34.3%を占めるようになります。

○生産年齢人口は、2020年から2065年までに6,253人（約42.8%）減少し、8,361人に、年少人口は1,623人（約43.5%）減少し、2,104人になると推計されます。



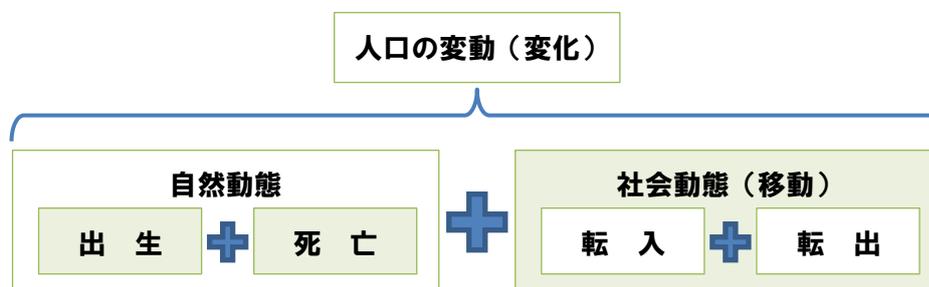
※端数処理しているため、合計が一致しない場合があります。

	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年	令和47年
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
年少人口割合	13.9%	14.0%	13.6%	13.2%	12.9%	12.9%	13.0%	13.1%	13.1%	13.1%	13.2%
生産年齢人口割合	57.2%	55.1%	55.0%	55.1%	54.2%	52.1%	50.5%	49.7%	50.3%	51.4%	52.5%
老年人口割合	28.9%	30.9%	31.3%	31.7%	32.9%	35.0%	36.5%	37.2%	36.6%	35.4%	34.3%

### (3) 趨勢人口をふまえた将来人口のシミュレーション

#### ①将来人口の推計方法

人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



推計方法はコーホート要因法によるものとしますが、これは男女別年齢別人口集団（コーホート）に対して、出生・死亡・社会移動（転入－転出）の係数を設定し、将来にわたって積み上げ計算を行うことによる推計です。

本推計では、地方人口ビジョン策定にむけて国が配付している人口推計ワークシートを活用しながら趨勢人口推計および3パターンのシミュレーション推計を行います。

#### 斑鳩町の将来人口推計における諸要素の考え方

項目	説明
推計に用いる人口	基準人口（推計の出発点とする人口）は、2015年10月1日時点の国勢調査人口とする。
推計期間	2020年から2065年までの5年ごとの人口（性別年齢（5歳階級）別人口）を推計する。
生残率（死亡率）	全国の生残率（性別年齢別）将来値（社人研による推計値）を採用する。

	趨勢人口	シミュレーション1	シミュレーション2	シミュレーション3
出生率	社人研推計値を採用	合計特殊出生率は、2020年まで社人研推計値、その後2030年までに2.1（人口置換水準）まで上昇すると仮定。 （2035年以降は2.1を維持）		合計特殊出生率は、2020年まで社人研推計値、その後2030年に1.73（町民希望出生率）まで上昇、さらに2040年には2.1（人口置換水準）にまで上昇すると仮定。（2040年以降は2.1を維持）
純移動率	社人研推計値を採用		2020～2025年は社人研推計値を採用し、2030年以降の性別・年齢5歳別のすべてにおいて移動が均衡（ゼロ）となることを仮定。	

※町民希望出生率については、国民希望出生率に準拠し、第1期斑鳩町人口ビジョンにおいて次のような手法により算出しています。

$$\begin{aligned}
 \text{斑鳩町民希望出生率} &= ( \text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} + \text{独身者割合} \times \text{独身者の結婚希望者割合} \times \text{独身者の希望子ども数} ) \times \text{離死別等の影響} \\
 &= ( 36.8\% \times 2.01人 + 63.2\% \times 78.9\% \times 2.21人 ) \times 0.938 \\
 &= 1.73人
 \end{aligned}$$

[有配偶者割合] 国勢調査（平成22年）による20～34歳女性の有配偶者割合

[夫婦の予定子ども数] 町アンケート（平成27年）結果より、49歳以下の既婚者（事実婚を含む）が“将来的に持つ予定の子どもの数”の平均を算出

[独身者割合] 国勢調査（平成22年）による20～34歳女性の独身者割合

[独身者の結婚希望者割合] 町アンケート（平成27年）結果より、49歳以下の独身（婚姻歴ありを含む）女性のうち、“結婚の予定がある”または“結婚の予定はないが、結婚したい”と回答した人の割合を算出

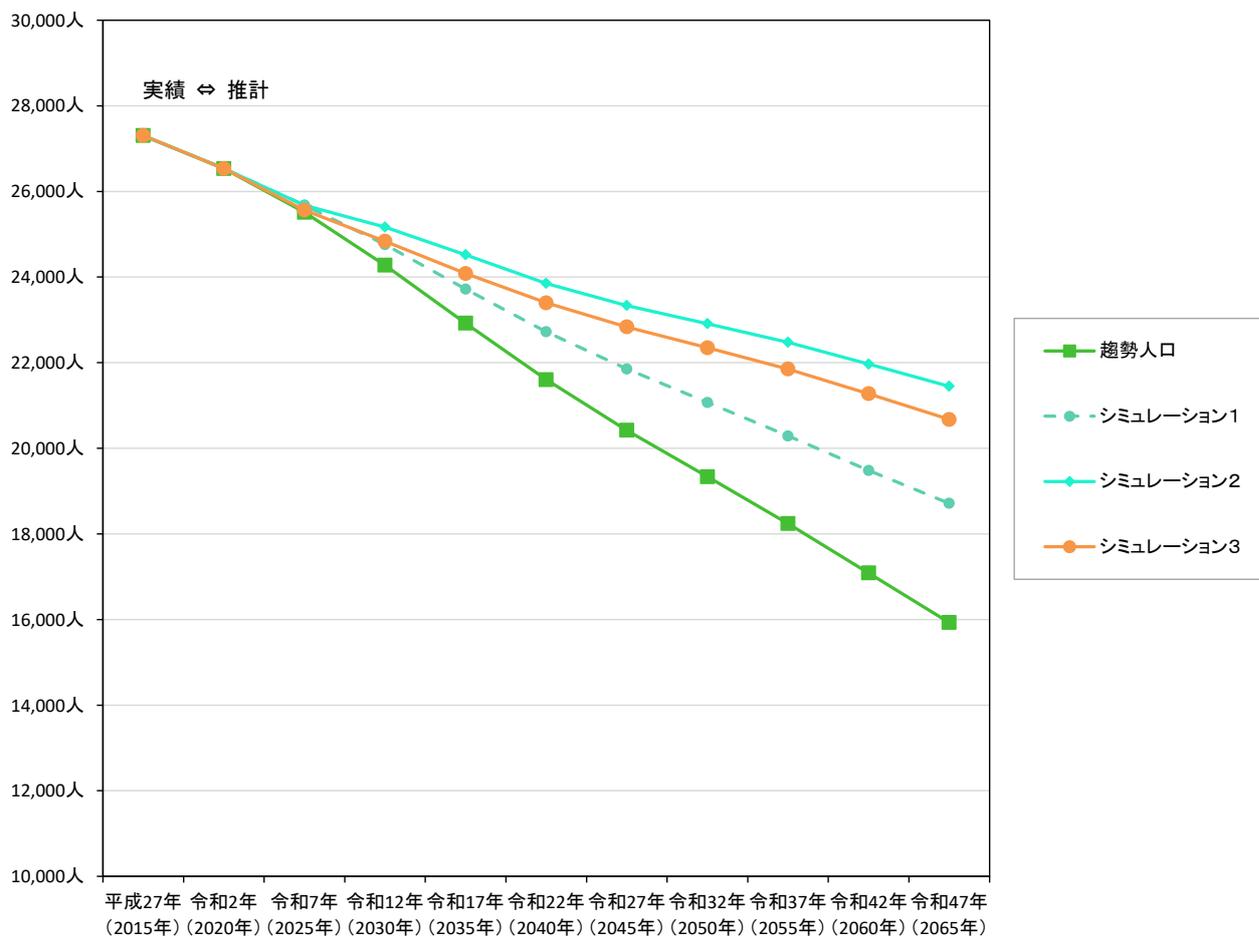
[独身者の希望子ども数] 町アンケート（平成27年）結果より、49歳以下の独身（婚姻歴ありを含む）女性で“結婚の予定がある”または“結婚の予定はないが、結婚したい”と回答した人の“理想的な子どもの数”の平均を算出

[離死別等の影響] 国採用値による

## ②シミュレーションの結果

シミュレーションの結果は、2065年において趨勢人口では15,930人程度が見込まれるのに対して、シミュレーション1では18,713人、シミュレーション2では21,448人、シミュレーション3では20,674人となっています。

### 各推計シミュレーションの比較



	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	令和32年 (2050年)	令和37年 (2055年)	令和42年 (2060年)	令和47年 (2065年)
趨勢人口(社人研推計)	27,303	26,535	25,512	24,276	22,921	21,602	20,419	19,335	18,240	17,087	15,930
シミュレーション1	27,303	26,535	25,678	24,758	23,717	22,720	21,854	21,071	20,286	19,482	18,713
シミュレーション2	27,303	26,535	25,678	25,168	24,521	23,850	23,335	22,911	22,476	21,968	21,448
シミュレーション3	27,303	26,535	25,565	24,836	24,083	23,396	22,833	22,348	21,850	21,273	20,674

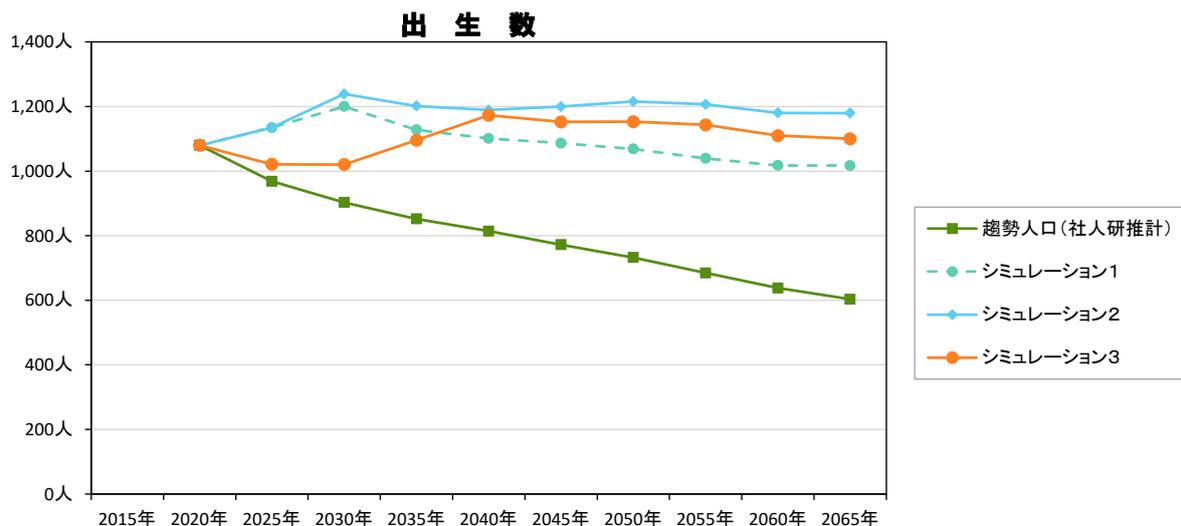
### ③出生数の見通し

出生については、次のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

【合計特殊出生率】

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)	1.38	1.59	1.57	1.58	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59
シミュレーション1	1.38	1.59	1.85	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
シミュレーション2	1.38	1.59	1.85	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
シミュレーション3	1.38	1.59	1.66	1.73	1.92	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

- 趨勢人口では、2020年以降の合計特殊出生率が1.57～1.59で仮定されていますが、出産を担う若い女性人口の減少に伴い、出生数は年々減少していくことが見込まれます。
- シミュレーション1～2では合計特殊出生率が2020年の1.59から次第に上昇し、2030年には人口置換水準である2.10に達することを、また、シミュレーション3では2030年に町民希望出生率である1.73に上昇し、さらに2040年には2.10に達することをそれぞれ仮定しており、こうした出生率の上昇により、出生数は2030年～2040年以降、安定的に推移します。



【出生数】

(単位:人)

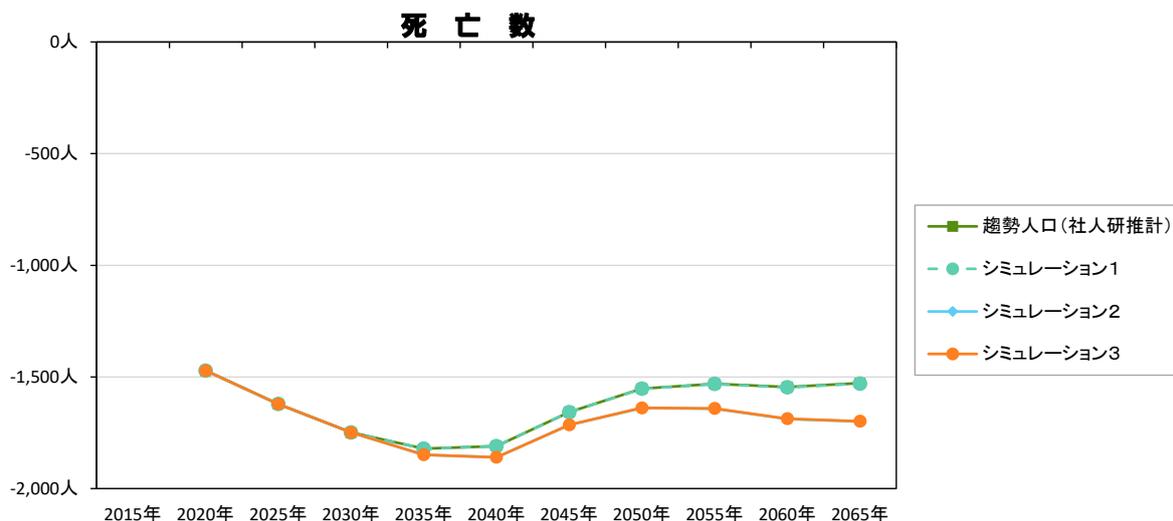
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)		1,080	968	903	852	814	772	732	685	638	603
シミュレーション1		1,080	1,135	1,200	1,128	1,101	1,087	1,069	1,039	1,017	1,017
シミュレーション2		1,080	1,135	1,239	1,202	1,189	1,200	1,215	1,207	1,180	1,180
シミュレーション3		1,080	1,021	1,020	1,096	1,173	1,152	1,153	1,143	1,110	1,100

※数値は5年間計

#### ④死亡数の見通し

死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の生残率の設定を採用しています。社人研設定においては、既に将来における平均余命の延伸等が織り込み済みとなっています。

したがって、趨勢人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。

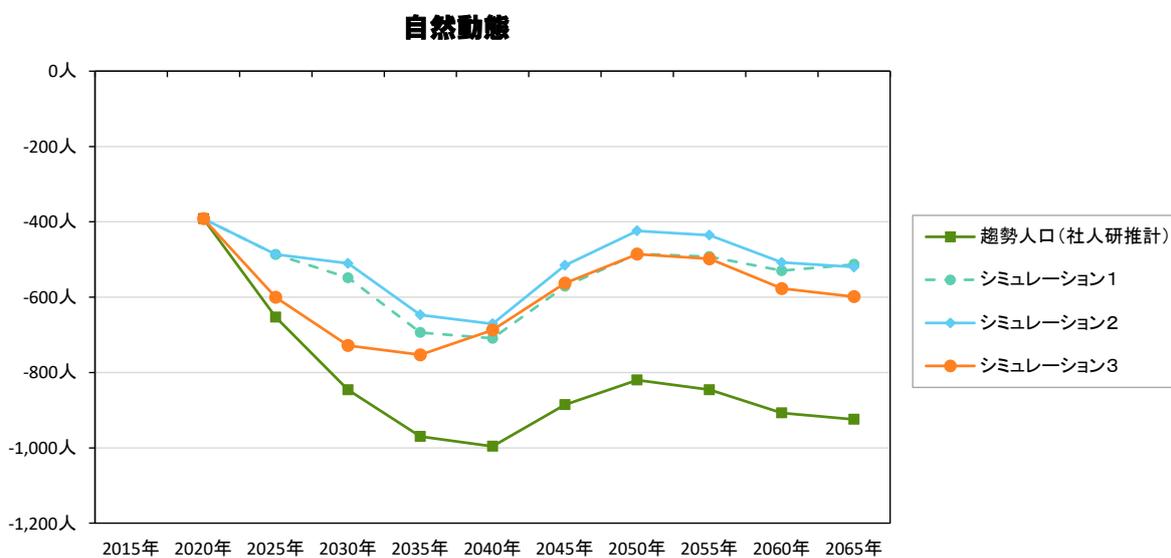


	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)		-1,472	-1,621	-1,749	-1,822	-1,810	-1,657	-1,552	-1,530	-1,545	-1,528
シミュレーション1		-1,472	-1,621	-1,749	-1,822	-1,810	-1,658	-1,553	-1,532	-1,547	-1,530
シミュレーション2		-1,472	-1,621	-1,749	-1,849	-1,860	-1,715	-1,639	-1,642	-1,688	-1,700
シミュレーション3		-1,472	-1,621	-1,749	-1,849	-1,860	-1,715	-1,639	-1,641	-1,687	-1,699

※数値は5年間計

## ⑤自然動態の見通し

出生数と死亡数を合わせた自然動態については、出生数が安定的に推移する 2040 年前後から減少が抑制されると見込まれます。



【自然動態】 (単位: 人)

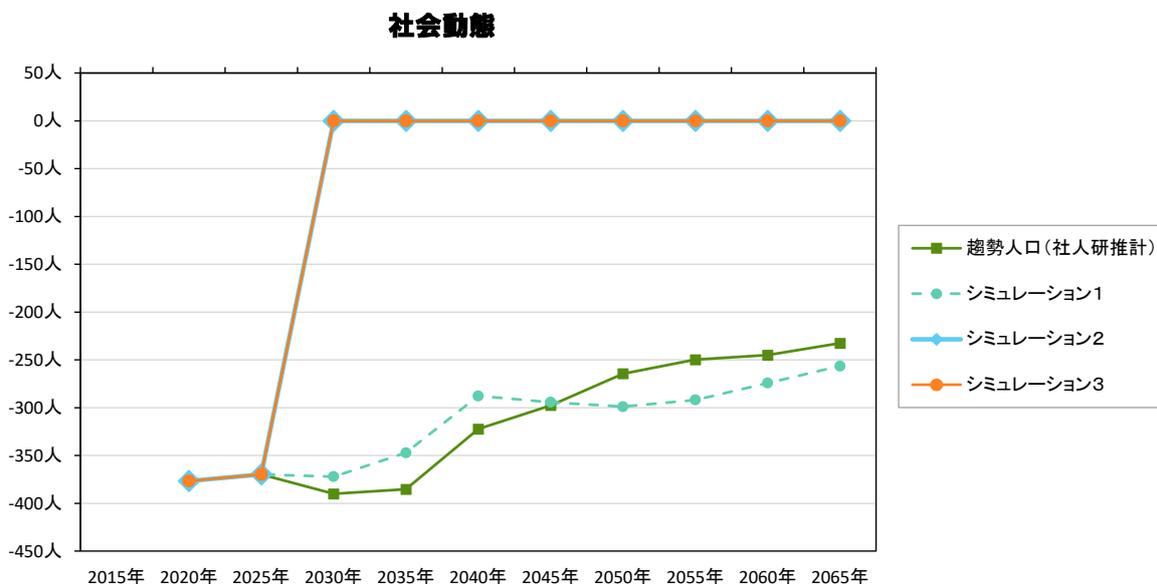
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)		-392	-653	-846	-970	-996	-885	-820	-845	-907	-925
シミュレーション1		-392	-486	-549	-694	-709	-571	-484	-493	-530	-513
シミュレーション2		-392	-486	-510	-647	-671	-515	-424	-435	-508	-520
シミュレーション3		-392	-600	-729	-753	-687	-563	-486	-498	-577	-599

※数値は5年間計

## ⑥社会動態の見通し

趨勢人口及びシミュレーション1は、社人研の想定している社会移動を反映した結果となっており、緩やかに転出超過が改善されていくものの、転出超過の状況は一貫して変わりません。

シミュレーション2～3では、今後の社会移動の均衡（ゼロ）状態を想定しており、純移動数は2030年以降、ゼロとなっています。



【社会動態】

(単位: 人)

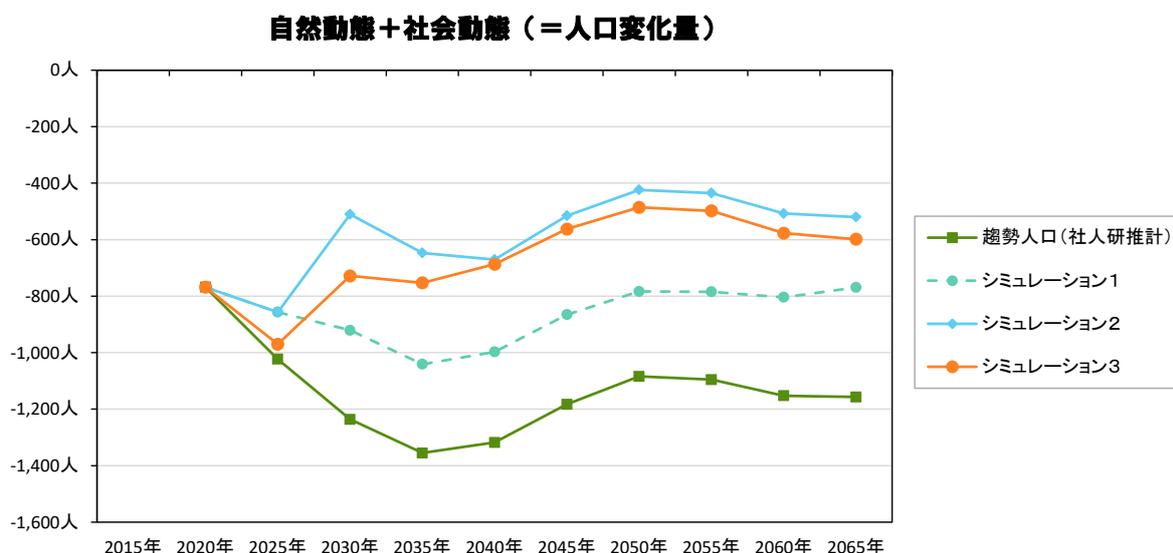
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)		-377	-370	-390	-385	-322	-298	-264	-250	-245	-233
シミュレーション1		-377	-370	-372	-347	-288	-294	-299	-292	-274	-256
シミュレーション2		-377	-370	0	0	0	0	0	0	0	0
シミュレーション3		-377	-370	0	0	0	0	0	0	0	0

※数値は5年間計

## ⑦自然動態+社会動態の見通し

自然動態と社会動態を合わせた推移については、出生数が安定的に推移する2040年前後から減少が抑制されると見込まれます。

人口減少の抑制が最も大きいのはシミュレーション2であり、次いでシミュレーション3となります。



【自然動態+社会動態】

(単位:人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)		-768	-1,023	-1,236	-1,355	-1,318	-1,183	-1,084	-1,096	-1,152	-1,157
シミュレーション1		-768	-856	-921	-1,041	-997	-866	-783	-784	-804	-769
シミュレーション2		-768	-856	-510	-647	-671	-515	-424	-435	-508	-520
シミュレーション3		-768	-970	-728	-753	-687	-563	-486	-498	-577	-598

※数値は5年間計

## ⑧年齢構造の見通し

推計結果について、年齢構造別に示すと次のとおりです。

【年齢構造別人口】

(単位:人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)	27,303	26,535	25,512	24,276	22,921	21,602	20,419	19,335	18,240	17,087	15,930
0～14歳	3,790	3,727	3,476	3,195	2,954	2,796	2,661	2,532	2,392	2,246	2,104
15～39歳	6,790	5,981	5,532	5,377	5,239	4,987	4,748	4,444	4,156	3,895	3,693
40～64歳	8,834	8,633	8,508	7,999	7,190	6,264	5,566	5,160	5,010	4,889	4,668
65～74歳	4,368	3,885	2,981	2,721	2,962	3,299	3,204	2,743	2,239	1,875	1,793
75歳以上	3,521	4,309	5,015	4,983	4,575	4,257	4,241	4,455	4,443	4,182	3,672
シミュレーション1	27,303	26,535	25,678	24,758	23,717	22,720	21,854	21,071	20,286	19,482	18,713
0～14歳	3,790	3,727	3,643	3,677	3,750	3,731	3,613	3,550	3,484	3,409	3,351
15～39歳	6,790	5,981	5,532	5,377	5,239	5,169	5,230	5,162	5,110	5,127	5,083
40～64歳	8,834	8,633	8,508	7,999	7,190	6,264	5,566	5,160	5,010	4,889	4,814
65～74歳	4,368	3,885	2,981	2,721	2,962	3,299	3,204	2,743	2,239	1,875	1,793
75歳以上	3,521	4,309	5,015	4,983	4,575	4,257	4,241	4,455	4,443	4,182	3,672
シミュレーション2	27,303	26,535	25,678	25,168	24,521	23,850	23,335	22,911	22,476	21,968	21,448
0～14歳	3,790	3,727	3,643	3,566	3,574	3,628	3,589	3,603	3,621	3,601	3,565
15～39歳	6,790	5,981	5,532	5,664	5,851	5,999	6,172	6,058	5,933	5,939	6,019
40～64歳	8,834	8,633	8,508	8,114	7,308	6,303	5,602	5,408	5,545	5,728	5,868
65～74歳	4,368	3,885	2,981	2,765	3,069	3,488	3,464	3,021	2,462	1,986	1,811
75歳以上	3,521	4,309	5,015	5,059	4,719	4,432	4,507	4,821	4,916	4,714	4,185
シミュレーション3	27,303	26,535	25,565	24,836	24,083	23,396	22,833	22,348	21,850	21,273	20,674
0～14歳	3,790	3,727	3,529	3,234	3,136	3,288	3,420	3,477	3,447	3,405	3,352
15～39歳	6,790	5,981	5,532	5,664	5,851	5,886	5,841	5,621	5,481	5,440	5,571
40～64歳	8,834	8,633	8,508	8,114	7,308	6,303	5,602	5,408	5,545	5,728	5,755
65～74歳	4,368	3,885	2,981	2,765	3,069	3,488	3,464	3,021	2,462	1,986	1,811
75歳以上	3,521	4,309	5,015	5,059	4,719	4,432	4,507	4,821	4,916	4,714	4,185

※端数処理しているため、合計が一致しない場合があります。

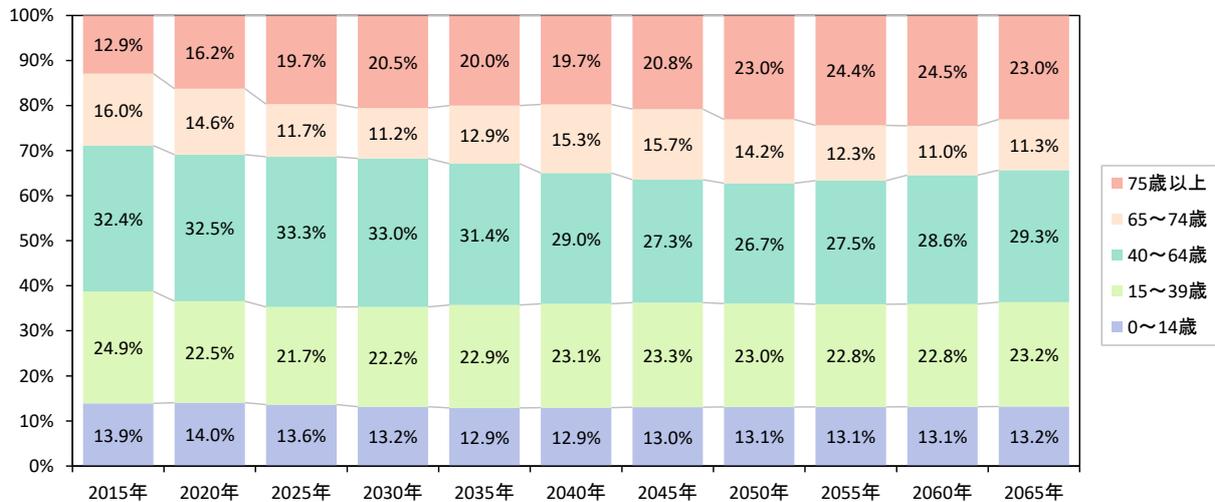
【年齢構造別人口構成比】

(単位:人)

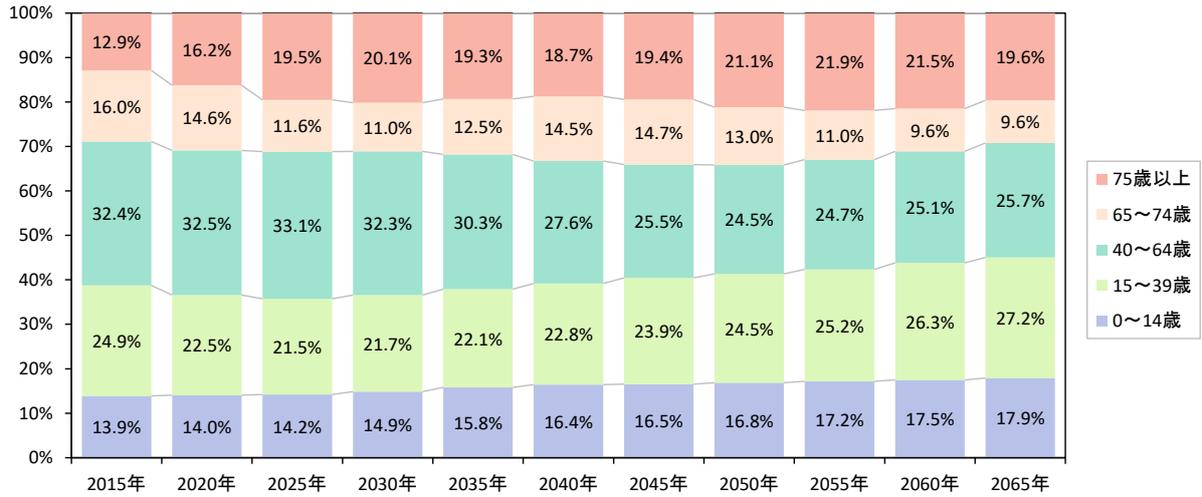
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口(社人研推計)	27,303	26,535	25,512	24,276	22,921	21,602	20,419	19,335	18,240	17,087	15,930
0～14歳	13.9%	14.0%	13.6%	13.2%	12.9%	12.9%	13.0%	13.1%	13.1%	13.1%	13.2%
15～39歳	24.9%	22.5%	21.7%	22.2%	22.9%	23.1%	23.3%	23.0%	22.8%	22.8%	23.2%
40～64歳	32.4%	32.5%	33.3%	33.0%	31.4%	29.0%	27.3%	26.7%	27.5%	28.6%	29.3%
65～74歳	16.0%	14.6%	11.7%	11.2%	12.9%	15.3%	15.7%	14.2%	12.3%	11.0%	11.3%
75歳以上	12.9%	16.2%	19.7%	20.5%	20.0%	19.7%	20.8%	23.0%	24.4%	24.5%	23.0%
シミュレーション1	27,303	26,535	25,678	24,758	23,717	22,720	21,854	21,071	20,286	19,482	18,713
0～14歳	13.9%	14.0%	14.2%	14.9%	15.8%	16.4%	16.5%	16.8%	17.2%	17.5%	17.9%
15～39歳	24.9%	22.5%	21.5%	21.7%	22.1%	22.8%	23.9%	24.5%	25.2%	26.3%	27.2%
40～64歳	32.4%	32.5%	33.1%	32.3%	30.3%	27.6%	25.5%	24.5%	24.7%	25.1%	25.7%
65～74歳	16.0%	14.6%	11.6%	11.0%	12.5%	14.5%	14.7%	13.0%	11.0%	9.6%	9.6%
75歳以上	12.9%	16.2%	19.5%	20.1%	19.3%	18.7%	19.4%	21.1%	21.9%	21.5%	19.6%
シミュレーション2	27,303	26,535	25,678	25,168	24,521	23,850	23,335	22,911	22,476	21,968	21,448
0～14歳	13.9%	14.0%	14.2%	14.2%	14.6%	15.2%	15.4%	15.7%	16.1%	16.4%	16.6%
15～39歳	24.9%	22.5%	21.5%	22.5%	23.9%	25.2%	26.5%	26.4%	26.4%	27.0%	28.1%
40～64歳	32.4%	32.5%	33.1%	32.2%	29.8%	26.4%	24.0%	23.6%	24.7%	26.1%	27.4%
65～74歳	16.0%	14.6%	11.6%	11.0%	12.5%	14.6%	14.8%	13.2%	11.0%	9.0%	8.4%
75歳以上	12.9%	16.2%	19.5%	20.1%	19.2%	18.6%	19.3%	21.0%	21.9%	21.5%	19.5%
シミュレーション3	27,303	26,535	25,565	24,836	24,083	23,396	22,833	22,348	21,850	21,273	20,674
0～14歳	13.9%	14.0%	13.8%	13.0%	13.0%	14.1%	15.0%	15.6%	15.8%	16.0%	16.2%
15～39歳	24.9%	22.5%	21.6%	22.8%	24.3%	25.2%	25.6%	25.2%	25.1%	25.6%	26.9%
40～64歳	32.4%	32.5%	33.3%	32.7%	30.3%	26.9%	24.5%	24.2%	25.4%	26.9%	27.8%
65～74歳	16.0%	14.6%	11.7%	11.1%	12.7%	14.9%	15.2%	13.5%	11.3%	9.3%	8.8%
75歳以上	12.9%	16.2%	19.6%	20.4%	19.6%	18.9%	19.7%	21.6%	22.5%	22.2%	20.2%

※端数処理しているため、合計が100%にならない場合があります。

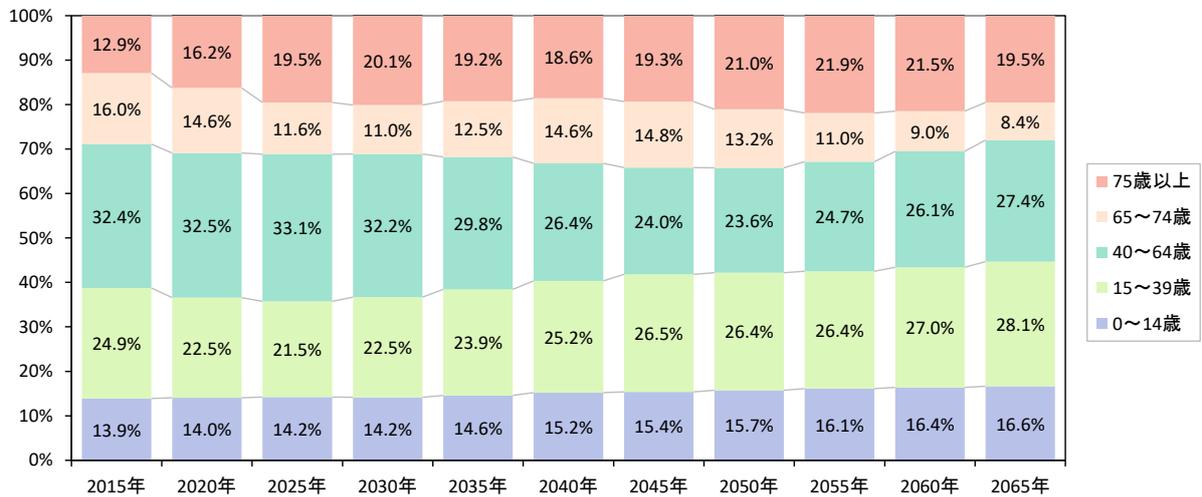
趨勢人口(社人研推計)：年齢構成比



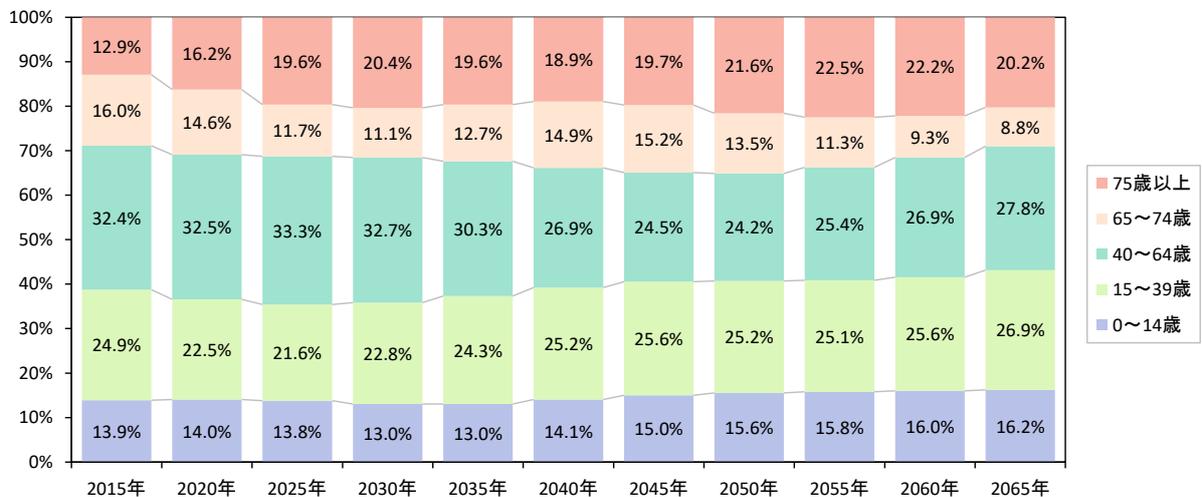
### シミュレーション1：年齢構成比



### シミュレーション2：年齢構成比



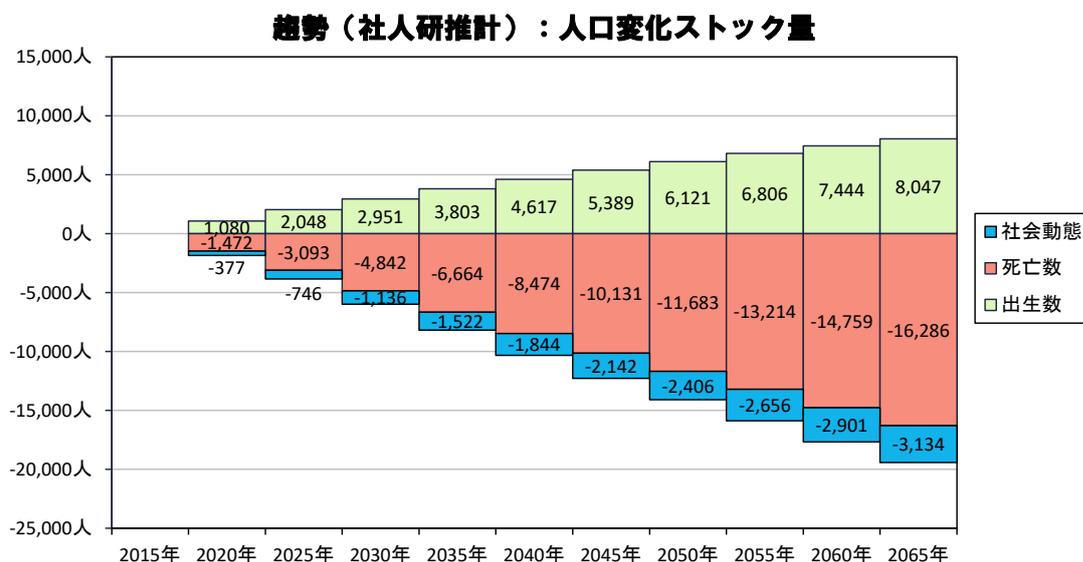
### シミュレーション3：年齢構成比



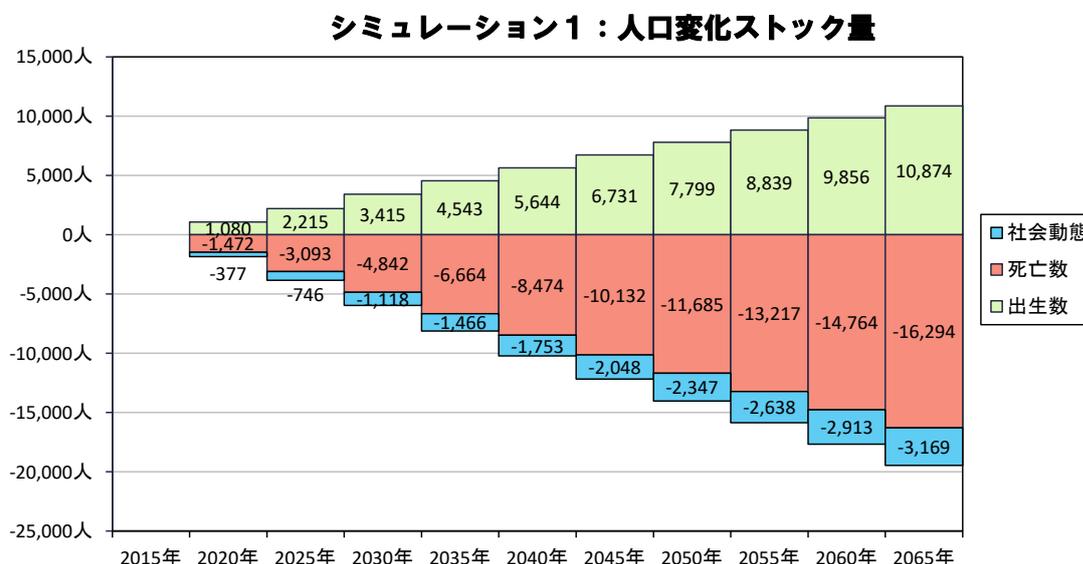
#### (4) 将来人口のシミュレーションをふまえた課題

○趨勢人口として、2015年から2065年までの50年間で11,000人程度の人口減少が見込まれますが、その減少の主因は死亡によるものです。

○下図に示すとおり、50年間で計16,300人程度の死亡が見込まれています。

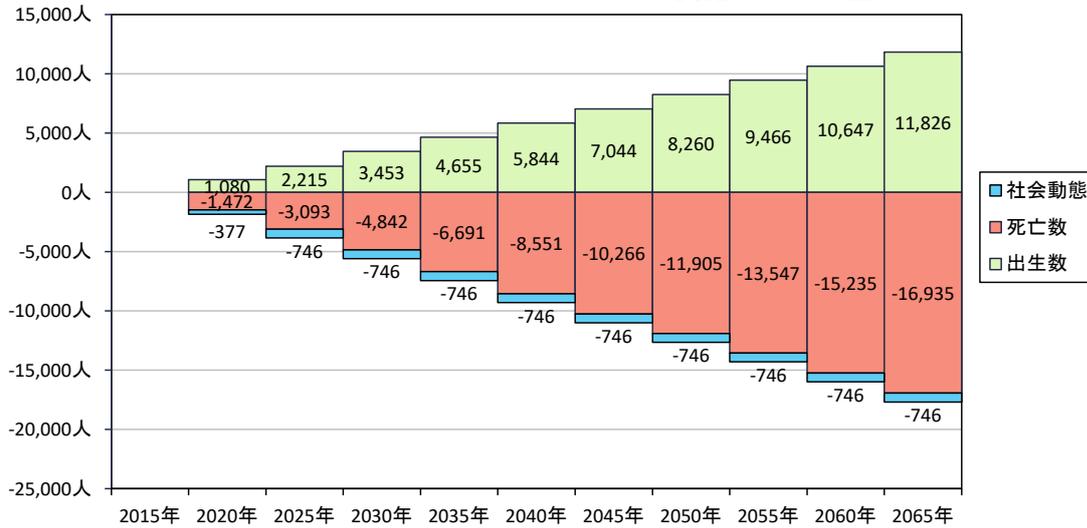


○シミュレーション1では出生数のストックが趨勢人口より多く見込まれます。

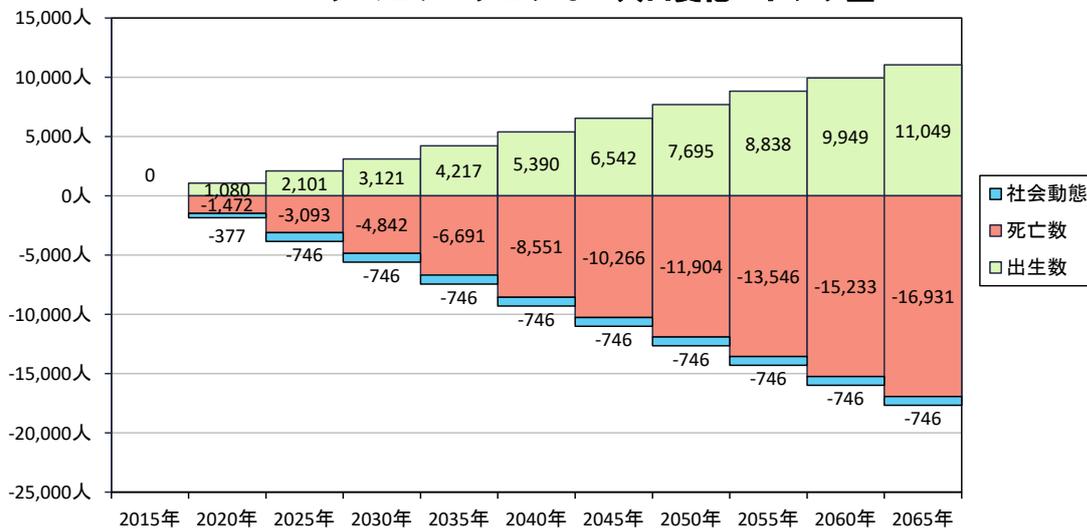


- シミュレーション2、3では社会動態によるストックは2025年のままとなります。
- その影響でシミュレーション2での出生数のストックはシミュレーション1より多く見込まれます。
- シミュレーション3では出生数のストックがシミュレーション2より少ないものの、シミュレーション1より多く見込まれます。

シミュレーション2：人口変化ストック量



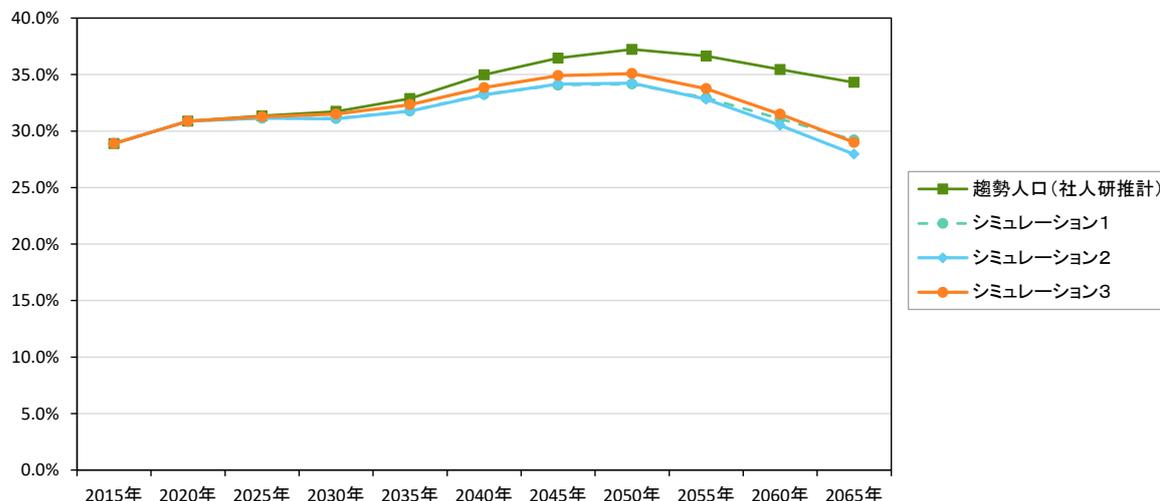
シミュレーション3：人口変化ストック量



○高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられ、したがって、今後の人口政策としては、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制が重要になってきます。

○趨勢人口としての老年人口は2020年に8,200人程度でピークを迎えることが想定されるものの、総人口の減少に伴い、高齢化率（老年人口比率）は2050年くらいまでは上昇していくことが見込まれています。

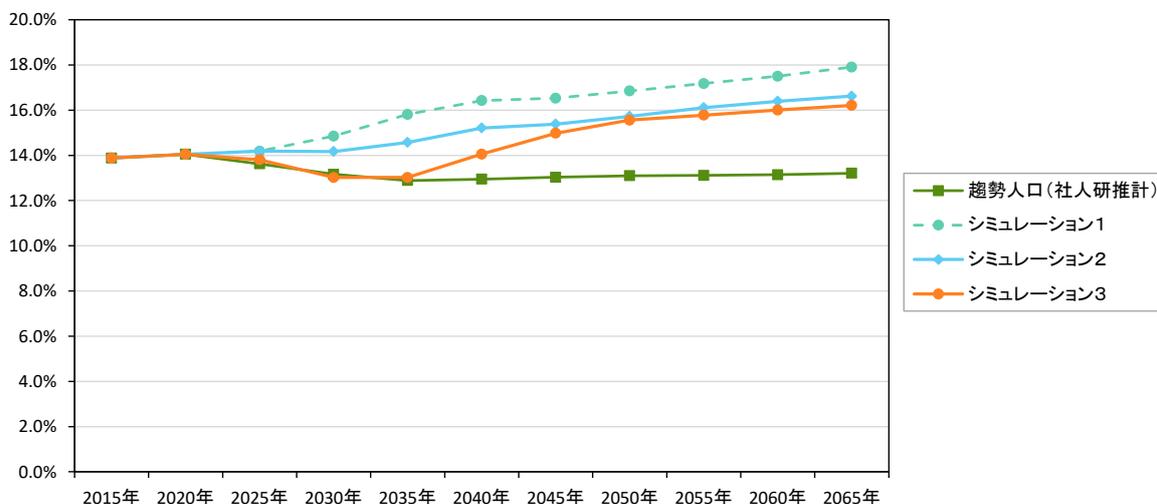
**65歳以上人口（老年人口）比率**



○出生動向については、趨勢人口で仮定された合計特殊出生率の水準を上回るような少子化対策をはかる必要があり、そのためには、子ども・子育て支援の充実、経済的支援、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの進展等を含めた子育て環境の向上をはかる取組みが極めて重要になってくるものと考えられます。

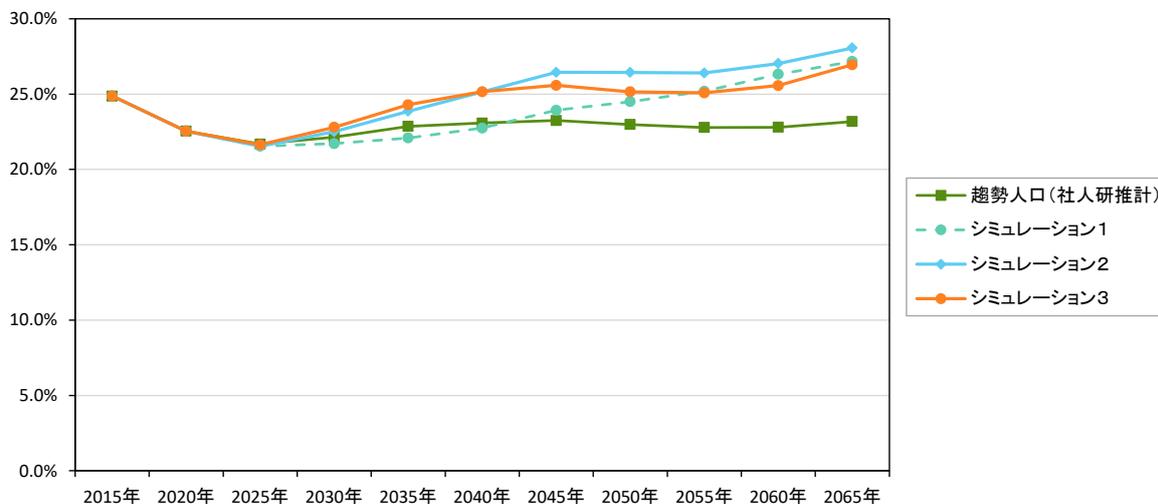
○シミュレーション1～3で想定したような合計特殊出生率上昇の効果として、趨勢人口では2065年の年少人口比率が13.2%にまで減少するのに対し、シミュレーション1～3では16%以上の水準にまで上昇させることが可能です。

**0～14歳人口（年少人口）比率**

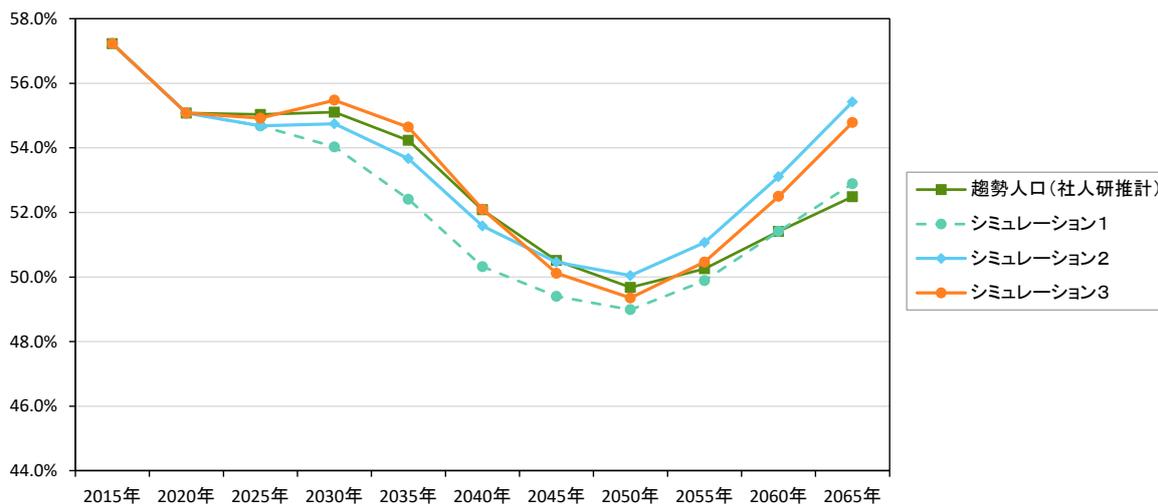


○また、若年層（15～39歳）を含む生産年齢人口（15～64歳）についても、シミュレーション1～3では趨勢人口を上回る水準が確保され、従属人口指数（生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の比率）が低く抑えられます。

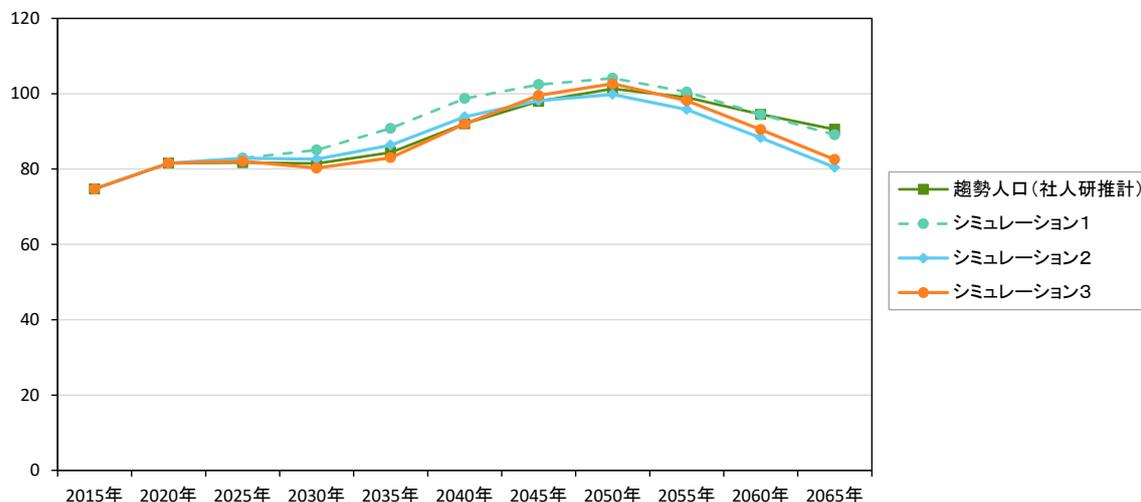
**15～39歳人口比率**



**15～64歳人口（生産年齢人口）比率**



**従属人口指数**



- こうした年少人口比率の増加や生産年齢人口比率の減少抑制の効果もあって、趨勢人口では2065年の高齢化率が34.3%であるのに対し、シミュレーション1～3では28～29%程度に抑制することができます。
- 地域における人口規模の大幅な縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口の減少の結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活におけるさまざまなサービス・利便性が低下していくとともに、こうした都市機能・生活機能の低下により、さらに転出がすすみ、人口減少に拍車がかかる悪循環に陥ることが懸念されます。
- 国及び地方が一体となって、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制、健康寿命の延伸をはかる必要があります。
- また、人口規模だけの問題ではなく、将来の人口の年齢構造の問題についても捉えておくことが重要です。このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービスの需要・供給量の構造的不均衡を生じさせかねません。
- 長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、持続可能な人口構造の構築に取り組む必要があります。

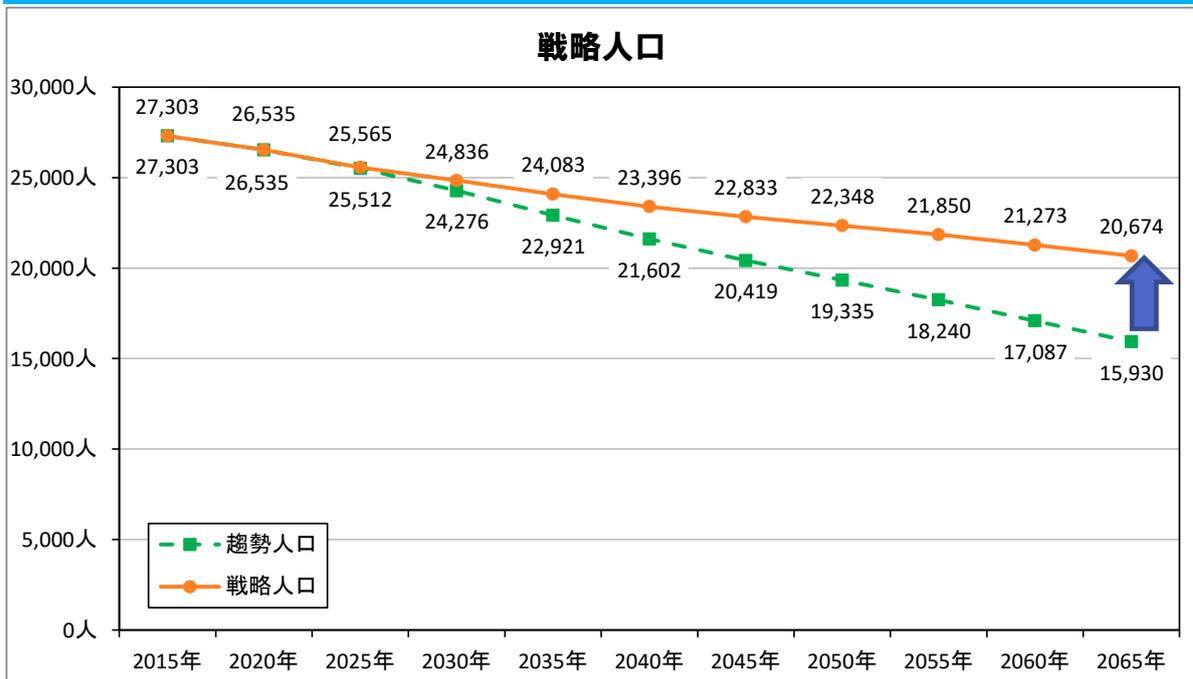
## 第2章 斑鳩町における人口の将来展望

### 2-1 めざすべき戦略人口と将来展望

#### (1) 斑鳩町の戦略人口

- 本町の人口動向や将来人口シミュレーションの分析を通じ、このままでは本町の趨勢人口は2065年に15,900人程度にまで減少することが明らかになりました。
- 人口規模の縮小は、必ずしも弊害ばかりではないものと考えますが、趨勢人口では人口規模の縮小にともない、少子化・高齢化もさらにすすむこととなるため、本町の持続的・安定的な町政運営の観点やにぎわいと魅力のあるまちづくりをすすめていく観点などから、今後も、少子化対策や転入・定住の促進等の取組みにより、人口減少の抑制をはかるものとしてします。
- これらの人口減少対策の取組みにより、2065年にめざすべき戦略人口として、人口シミュレーションのうち、町民希望出生率をふまえた出生率の上昇および社会移動の均衡をはかるシミュレーション3の実現をめざします。

2065（令和47）年における戦略人口：20,700人



※端数処理しているため、戦略効果の算出結果が一致しない場合があります。

(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	27,303	26,535	25,512	24,276	22,921	21,602	20,419	19,335	18,240	17,087	15,930
戦略人口	27,303	26,535	25,565	24,836	24,083	23,396	22,833	22,348	21,850	21,273	20,674
戦略効果（戦略人口-趨勢人口）		0	53	561	1,163	1,794	2,414	3,013	3,610	4,185	4,744

## (2) 戦略人口に基づく将来展望

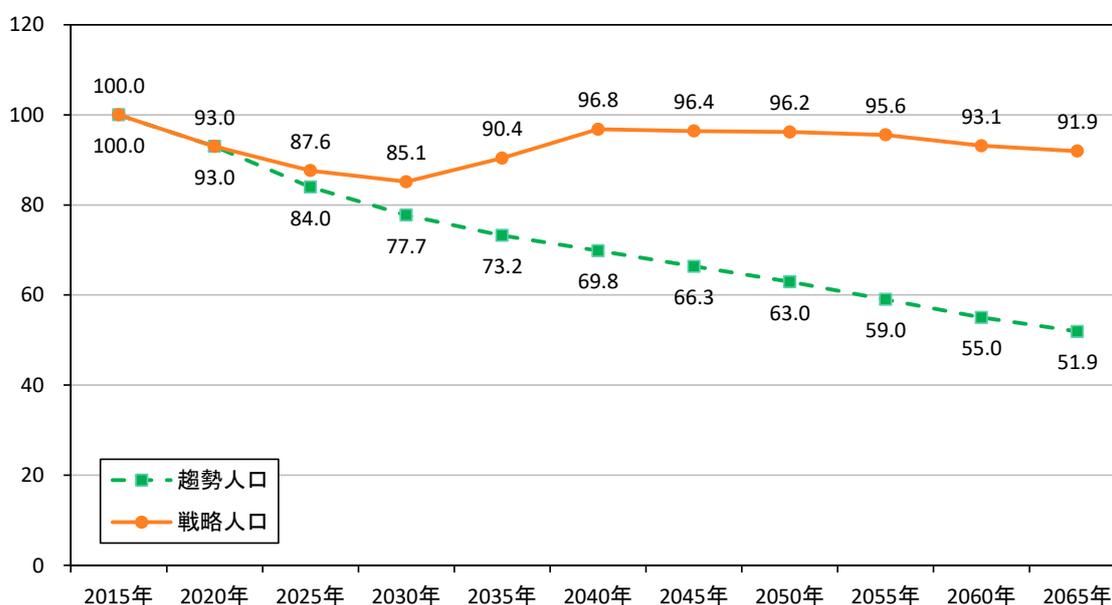
### ① 年齢構造の視点からみた将来展望

#### 【未就学の子ども数】

○子育て施策の主対象となる未就学の子ども数については、少子化の影響で2030年には2015年の85%程度にまで減少しますが、その後は合計特殊出生率の上昇等を背景に回復し、比較的安定的に推移することが見込まれます。

○少子化抑制は人口問題の最大の課題であることを含め、子育て施策については今後も充実させていくことが求められます。

未就学の子ども数（変化指数 2015年=100）



(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	1,438	1,337	1,207	1,118	1,053	1,004	954	905	849	791	746
戦略人口	1,438	1,337	1,260	1,224	1,300	1,392	1,386	1,383	1,374	1,339	1,322

変化指数	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	100.0	93.0	84.0	77.7	73.2	69.8	66.3	63.0	59.0	55.0	51.9
戦略人口	100.0	93.0	87.6	85.1	90.4	96.8	96.4	96.2	95.6	93.1	91.9

構成比	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	5.3%	5.0%	4.7%	4.6%	4.6%	4.6%	4.7%	4.7%	4.7%	4.6%	4.7%
戦略人口	5.3%	5.0%	4.9%	4.9%	5.4%	5.9%	6.1%	6.2%	6.3%	6.3%	6.4%

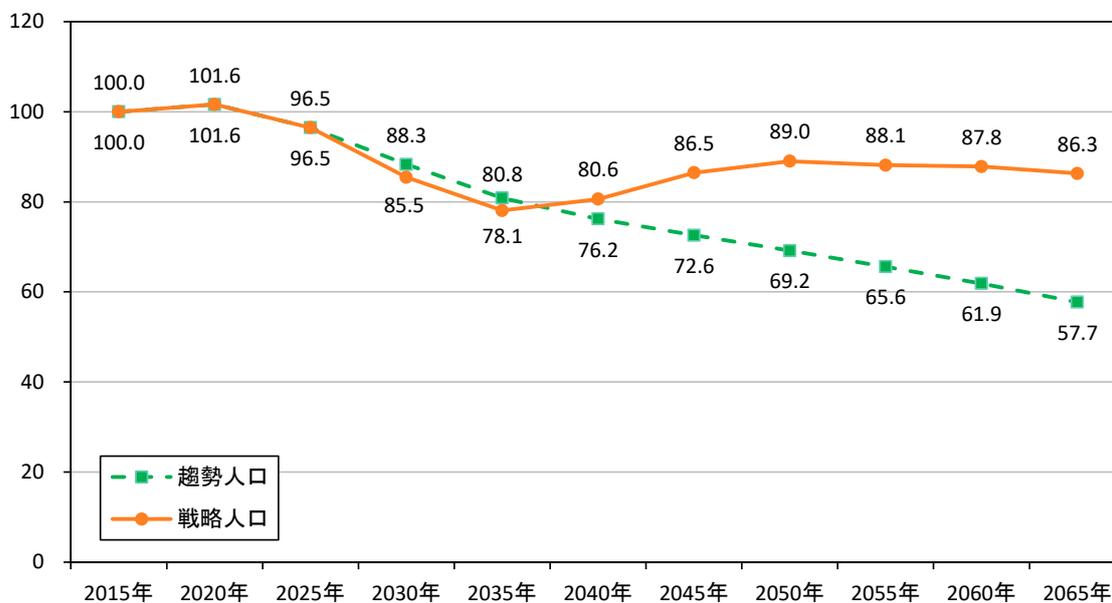
※将来人口シミュレーションでは、5歳別推計を行っているため、0～5歳人口については次のように算定しています。

$$0\sim5\text{歳人口} = [\text{推計された}0\sim4\text{歳人口}] + [\text{推計された}5\sim9\text{歳人口} \times 1/5]$$

## 【小・中学生数（6～14歳）】

○義務教育の小・中学生数については、減少傾向で推移し、2035年には2015年の78%程度になりますが、その後は合計特殊出生率の上昇等を背景とした未就学の子ども数の回復に支えられ、回復基調に転じるものと見込まれます。

### 小・中学生数（変化指数 2015年=100）



(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	2,352	2,390	2,269	2,077	1,901	1,792	1,707	1,627	1,543	1,455	1,358
戦略人口	2,352	2,390	2,269	2,010	1,836	1,896	2,033	2,094	2,073	2,066	2,030

変化指数	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	100.0	101.6	96.5	88.3	80.8	76.2	72.6	69.2	65.6	61.9	57.7
戦略人口	100.0	101.6	96.5	85.5	78.1	80.6	86.5	89.0	88.1	87.8	86.3

構成比	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	8.6%	9.0%	8.9%	8.6%	8.3%	8.3%	8.4%	8.4%	8.5%	8.5%	8.5%
戦略人口	8.6%	9.0%	8.9%	8.1%	7.6%	8.1%	8.9%	9.4%	9.5%	9.7%	9.8%

※将来人口シミュレーションでは、5歳別推計を行っているため、6～14歳人口については次のように算定しています。

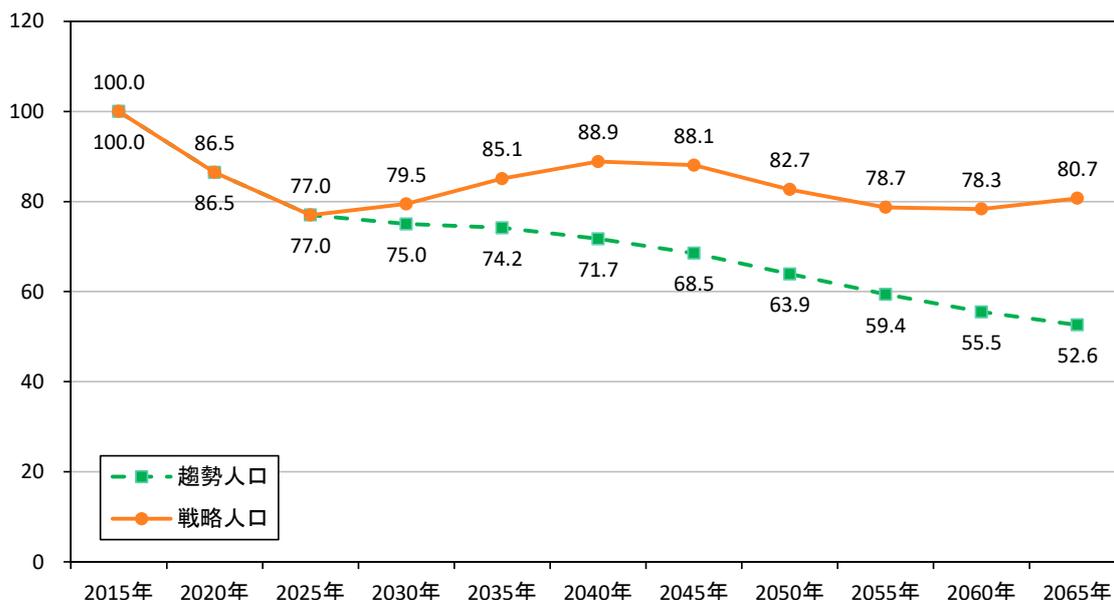
$$6\sim 14\text{歳人口} = [\text{推計された}5\sim 9\text{歳人口} \times 4/5] + [\text{推計された}10\sim 14\text{歳人口}]$$

## 【20 歳代・30 歳代の人口】

○少子化対策の観点から結婚・出産が最も期待される 20 歳代・30 歳代の人口については、2025 年には 2015 年の 77%程度にまで減少するものの、その後少子化対策の効果がこの年代にも現れ始め、2040 年には 89%程度まで回復するものと見込まれます。

○その後は、再び減少傾向となるものの、2060 年頃から回復し、2065 年には 81%程度となるものと見込まれます。

### 20歳代・30歳代の人口（変化指数 2015年=100）



(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	5,475	4,733	4,216	4,108	4,060	3,926	3,752	3,500	3,252	3,038	2,880
戦略人口	5,475	4,733	4,216	4,351	4,658	4,866	4,822	4,526	4,309	4,289	4,420

変化指数	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	100.0	86.5	77.0	75.0	74.2	71.7	68.5	63.9	59.4	55.5	52.6
戦略人口	100.0	86.5	77.0	79.5	85.1	88.9	88.1	82.7	78.7	78.3	80.7

構成比	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	20.1%	17.8%	16.5%	16.9%	17.7%	18.2%	18.4%	18.1%	17.8%	17.8%	18.1%
戦略人口	20.1%	17.8%	16.5%	17.5%	19.3%	20.8%	21.1%	20.3%	19.7%	20.2%	21.4%

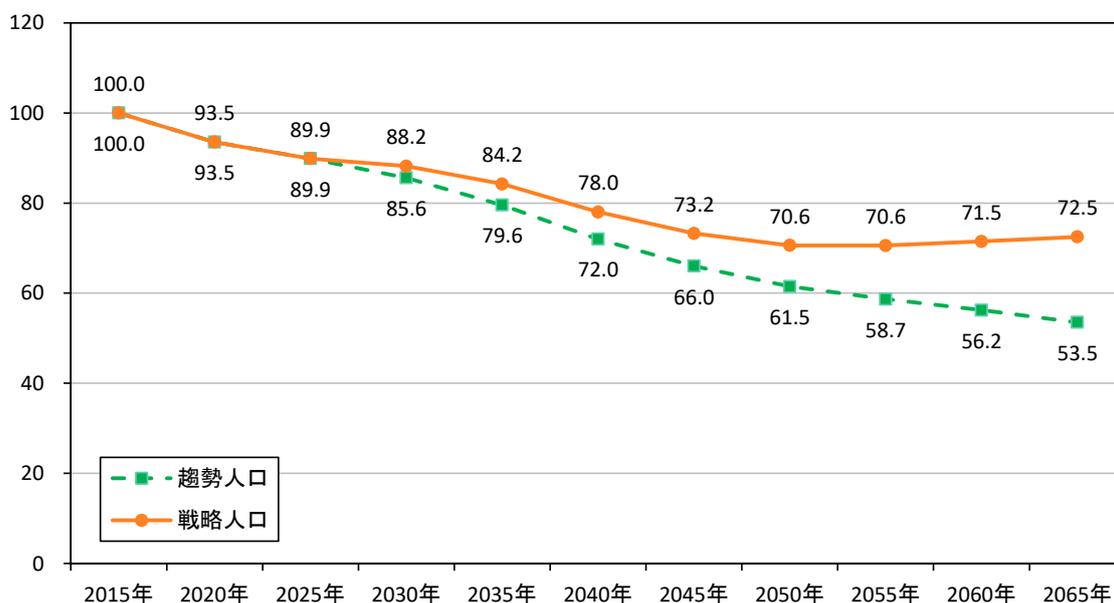
## 【生産年齢人口（15～64歳）】

○本町における生産・消費といった経済活動の多くを担うことが期待される生産年齢人口については、今後も減少傾向で推移し、2050年には2015年の71%程度にまで減少しますが、その後は比較的安定的に推移するものと見込まれます。

○人口構造に占める構成比で見ると、2050年に50%程度にまで縮小した後は、上昇に転じて2065年には55%程度にまで回復する見込みです。

○今後は、地域における雇用の創出をはかるとともに、経済規模の縮小を抑制するためにも生産性の向上についても力を入れていくことが重要です。

### 生産年齢人口（変化指数 2015年=100）



(単位：人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	15,624	14,614	14,040	13,377	12,430	11,250	10,314	9,605	9,166	8,784	8,361
戦略人口	15,624	14,614	14,040	13,778	13,159	12,189	11,443	11,029	11,025	11,167	11,327

変化指数	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	100.0	93.5	89.9	85.6	79.6	72.0	66.0	61.5	58.7	56.2	53.5
戦略人口	100.0	93.5	89.9	88.2	84.2	78.0	73.2	70.6	70.6	71.5	72.5

構成比	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	57.2%	55.1%	55.0%	55.1%	54.2%	52.1%	50.5%	49.7%	50.3%	51.4%	52.5%
戦略人口	57.2%	55.1%	54.9%	55.5%	54.6%	52.1%	50.1%	49.4%	50.5%	52.5%	54.8%

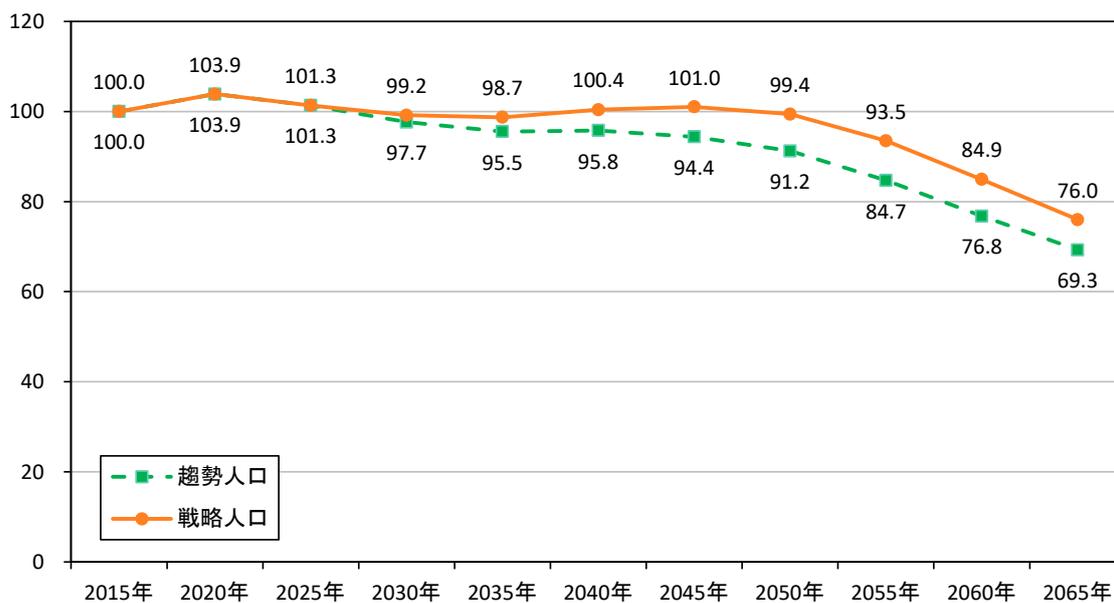
## 【老年人口（65歳以上）】

○老年人口については、2020年には2015年の104%程度にまで増加することが見込まれますが、その後は2045年まで比較的安定的に推移した後、減少傾向をたどり2065年には2015年の76%程度となると見込まれます。

○人口構造に占める構成比で見ると、高齢化率は2050年の35%程度をピークに下降に転じる見込みです。

○今後は、これまで以上にまちづくり等における高齢者の活躍が重要であり、また、期待されるところです。

### 老年人口（変化指数 2015年=100）



（単位：人）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	7,889	8,194	7,995	7,704	7,537	7,556	7,445	7,198	6,682	6,057	5,465
戦略人口	7,889	8,194	7,995	7,824	7,789	7,920	7,971	7,842	7,377	6,700	5,995

変化指数	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	100.0	103.9	101.3	97.7	95.5	95.8	94.4	91.2	84.7	76.8	69.3
戦略人口	100.0	103.9	101.3	99.2	98.7	100.4	101.0	99.4	93.5	84.9	76.0

構成比	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
趨勢人口	28.9%	30.9%	31.3%	31.7%	32.9%	35.0%	36.5%	37.2%	36.6%	35.4%	34.3%
戦略人口	28.9%	30.9%	31.3%	31.5%	32.3%	33.9%	34.9%	35.1%	33.8%	31.5%	29.0%

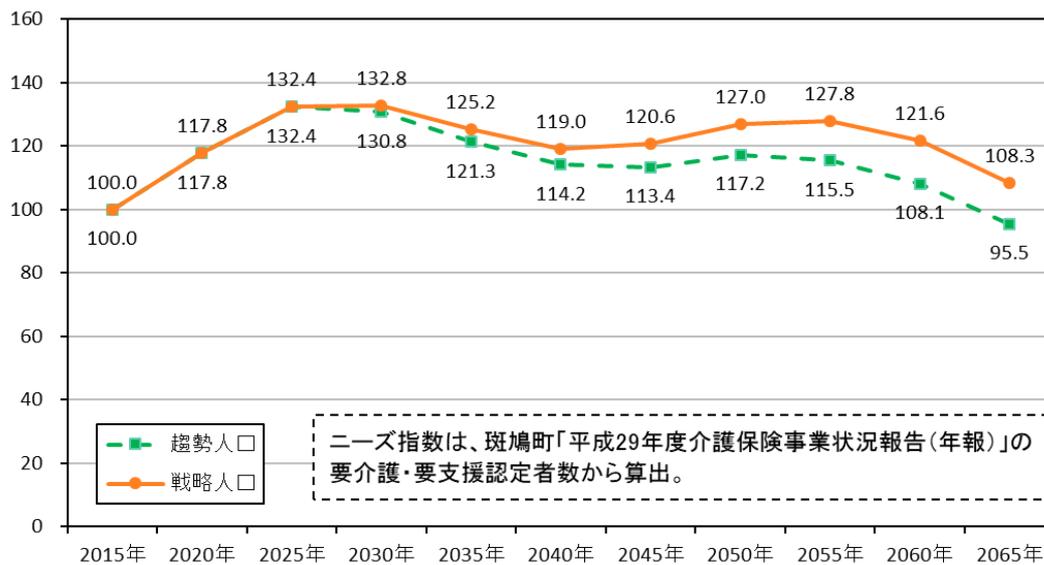
## ② 介護・医療ニーズの視点からみた将来展望

### 【介護ニーズ】

○介護ニーズについては、当面の老年人口の増加や高齢者の高齢化等により今後も増大し、2030年に2015年の133%程度の水準にまで達し、その後2055年までは2015年の120~130%程度の水準で推移した後、減少傾向をたどり、2065年には108%程度と想定されます。

○介護サービスについては、今後も長期的観点で施設・サービスの整備・充実をはかっていく必要があります。

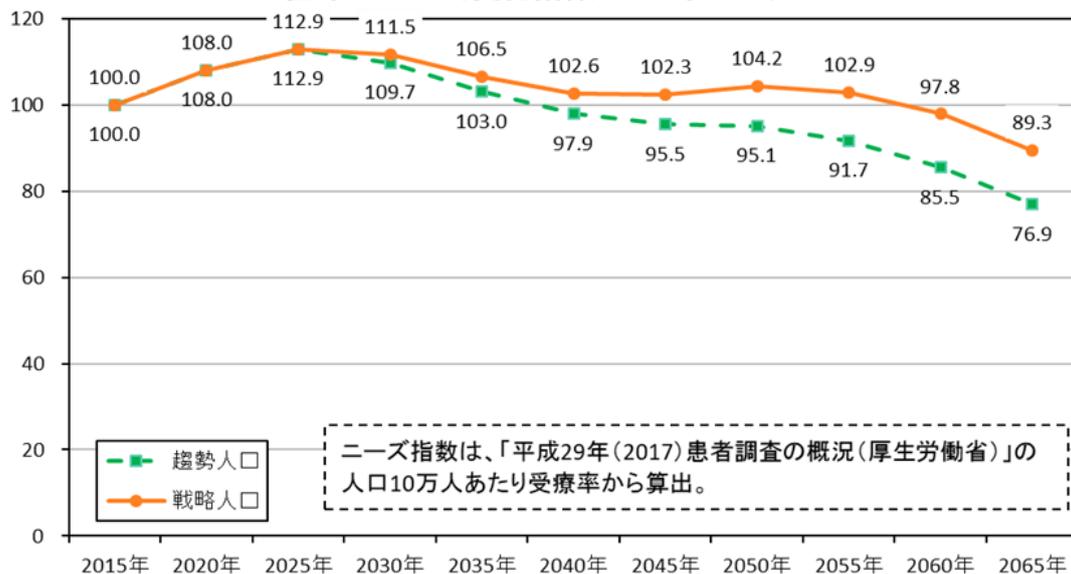
介護ニーズ（変化指数 2015年=100）



### 【医療ニーズ】

○医療ニーズについては、2025年に2015年の113%程度にまで上昇した後は、緩やかに縮小していくと想定されます。

医療ニーズ（変化指数 2015年=100）



## 2-2 戦略人口の達成にむけて

---

第1期斑鳩町人口ビジョンにおいて、将来の斑鳩町の姿（ビジョン）として掲げた次の“3つの願い”を継承し、戦略人口の達成にむけたまちづくりの基本的な考え方とします。

---

### ◇ 斑鳩に生まれ、斑鳩に育ち、斑鳩を愛す、元気な“斑鳩っ子”を増やしたい

---

- 本町においては、近年、良好な子育て環境を求めて多くの子育て世帯が転入していますが、少子化対策は、今日の人口減少問題に対応する上で、最も重要な対策であると考えます。
- 引き続き、安心して妊娠・出産ができ、子育てしやすい環境づくりを推進します。
- 2030年には町民希望出生率 1.73 の実現をめざすとともに、さらに2040年には人口置換水準である2.1にまで上昇させるよう取り組みを行います。
- また、斑鳩に生まれ、斑鳩に育つ“斑鳩っ子”たちのまちへの愛着を醸成することで、成長とともに町外へ転出した若者の将来的なリターンの可能性を高めたいと考えます。

---

### ◇ 古(いにしえ)からの独自の文化・風土・資源を生かしてにぎわい・活力を創出したい

---

- 斑鳩町には、「世界遺産 法隆寺」をはじめ、古の時代から築き、守られてきた貴重な文化・風土・資源があり、全国的・国際的な知名度や集客力を誇っています。
- 人口減少時代において、こうした資源や個性を生かした観光による人の交流やにぎわいは、本町にとって、これまで以上に貴重な文化・財産であると考えます。
- “世界遺産 法隆寺”を核として、多彩な歴史、文化、自然を有する斑鳩の魅力を発信し、観光や商業・農業・工業等の地域産業の産業間連携を強化し、経済波及効果と雇用創出効果を高めるしくみづくりを推進します。

---

### ◇ “斑鳩でくらししてみたい”と誰もが感じられる魅力あるまち“斑鳩の里”でありたい

---

- 若い世代の人口が減少することは、少子化を加速するばかりではなく、町や身近な地域の元気・活力の観点からも大きな問題と言えます。
- 今後も、住み続けたいまち・住んでみたいまち・訪れたいまちをめざします。
- “斑鳩の里”の住みやすく魅力ある住環境・自然環境・景観を広く発信し、新たな住民の積極的な受け入れをはかるとともに、安心してくらせる環境づくり、生涯健康で生きがいをもってくらせるまちづくりを推進します。